

S	日本画 I - 1 鉛筆写生	科目コード： 61001
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし	
開講日程・ 開講地・定員	日本画I-1(鉛筆写生)a 開催日程：2019年5月18日（土）～ 2019年5月19日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員：なし 日本画I-1(鉛筆写生)b 開催日程：2019年5月25日（土）～ 2019年5月26日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥16,000、定員：45 日本画I-1(鉛筆写生)c 開催日程：2019年6月15日（土）～ 2019年6月16日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員：なし	
担当者	後藤吉晃*、佐竹龍蔵、田中希和子、佐々木るり子、横山芳実、小滝雅道、渡邊葉子	

科目概要と到達目標

種類の異なる複数のモチーフ（描く対象物）をケント紙（四ツ切サイズ）に鉛筆で写生します。
2日間かけて、下記を学びます。

- 1)複数のモチーフを組み合わせてバランスの良い構成を考える（構図）
 - 2)モチーフの骨格を理解してそのものらしい形を捉える（形の特徴を掴む）
 - 3)色のあるものをモノクロに置き換えてモチーフの質や重さを表現する（存在感の表現）
- また、その為の、鉛筆の様々な使い方を学びます。一つ一つのモチーフの質や重量感を表現するだけでなく、モチーフ同士の位置関係も観察し、一つの自然な空間（全体感）を表現することも学びます。
2日間じっくり対象と向き合い、今後の制作の土台となる観察力と描写力を身につけることを目標とします。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取組み
2. 描写力
3. 理解度
4. 取組む姿勢
5. 完成度

上記の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に授業への取り組みと課題により総合的に評価します。

予習・復習

予習

- ・受講前にairUシラバス「日本画演習 I -1」第1課題テキスト・教材学習、またはシラバス巻末資料「TW（テキスト科目）編」を見て授業内容、描き進め方などを把握しておきましょう。
 - ・事前課題のための手馴らしとして、まず、鉛筆を削り、様々なタッチの種類を試してください。
- 2H～4Bまでの鉛筆それぞれを用いて、タッチの種類をスケッチブックに試してみましょう。鉛筆の芯先

に入れる力を強、中、弱と変えてみることを、毎日10分程度、練習して鉛筆に慣れるようにしましょう。（15時間）

復習

・観察力・描写力をつけるには、多く描くことが肝要です。目や手の感覚が薄れないうちに描くことで身体に記憶させましょう。身近にあり手軽に準備できる「卵」を1個描いてみましょう。それ以外にも、お手持ちの「ガラスコップ、布」なども描いてみましょう。また、演習課題に取り組んでいただくことも復習になります。（10時間）

テキストと参考文献・URL

テキスト	配布資料（当日、科目担当者作成のプリントを配布します）
参考文献・URL	airUマイページ>カリキュラム一覧（シラバス）>「日本画演習Ⅰ-1」第1課題>テキスト・教材学習 松生歩『白い紙の上に日本画制作への向かい方とヒント』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学舎、2019年

課題

●事前課題 ※事前課題に取り掛かる前に必ず予習をしてください。

鉛筆の扱い方になれることと、濃度の幅を確認するため、鉛筆（硬軟2種類以上）によるグラデーションを作成して、様々な濃度が出せることを体感してください。まずは2Hと3B2種類のグラデーションを作り、余裕があれば2H～4Bまでの内もう何種類かを使用して作ってみると、タッチの練習にもなります。

事前課題の詳細・作例は「鉛筆によるグラデーション」（airUシラバス「日本画演習Ⅰ-1」第1課題テキスト・教材学習、またはシラバス巻末資料「TW（テキスト科目）編」を参考にしてください。

●1日目・2日目の課題

事前課題で作成したグラデーションを参考にして写生します。

グラス、レンガ、布、ニンニクのそのものらしい形やモチーフ固有の色を鉛筆のモノクロの色に置き換えて、それぞれの重量感や質感等を鉛筆のタッチを何度も重ねて表現します。

授業計画

●自宅学習

事前課題

●スクーリング

1日目

1講時

・導入（構図、モチーフの配置、エスキース作成）

2講時

・位置関係、大きさ、形に注意しながら画面に入れる。
・形、位置関係を確認しながら、大まかな調子を付ける。

3～5講時

・固有色をモノクロに置き換えて付けていく。
・時々画面から離れてみながら全体に大きく濃、中、淡の調子を入れる。
・大きなところから少しずつ小さいところへ手を入れていく。
・質感・量感を意識して鉛筆のタッチなども工夫して描き進める。

2日目

1～2講時

- ・全体のバランスを見ながら細部を描く。
- ・全体、細部、全体、細部を繰り返しながら描きこみの密度を上げる。

3講時

- ・描き足りないところなど、手を入れて完成させる。

4～5講時

- ・合評・後片付け

受講にあたって

●持参物

事前課題（鉛筆で作成したグラデーション）

鉛筆（2H～4B）、カッターナイフ、目玉クリップ、練り消しゴム、消しゴム、羽簞、写生を持ち帰るための入れ物（筒やカルトンケース等）、スリッパ（本学NC棟で開講の場合のみ）

- ・スクーリング終了後、写生作品は持ち帰りとなりますので、写生を持ち帰るための入れ物（筒やカルトンケース等、四ツ切サイズの写生1枚が入るもの）を持参してください。
- ・カルトンは貸出ししています。（当日、各教室のアシスタントに申し出てください）
- ・画材の用途購入方法については「画材について」（airUシラバス「日本画 I-1」事前課題、またはシラバス巻末資料「画材編」および「画材申込編」）参照

●諸経費

実習費：600円（モチーフ、ケント紙）

- ・スクーリング終了後、指定講座より引き落としいたします。
- ・金額は変更になる場合がございます。

●その他

授業時に配布されたプリント類をまとめておくファイルを準備しておくことをおすすめします。

注意事項

事前課題があります。必ず受講までに確認し、取り組んでください。初日に持参・提出のない場合は単位認定されません。

S	日本画Ⅰ－2 色鉛筆写生	科目コード： 61002
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし	
開講日程・ 開講地・定員	日本画Ⅰ－2(色鉛筆写生)a 開催日程：2019年5月25日（土）～ 2019年5月26日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員：なし 日本画Ⅰ－2(色鉛筆写生)b 開催日程：2019年6月8日（土）～ 2019年6月9日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥16,000、定員：45 日本画Ⅰ－2(色鉛筆写生)c 開催日程：2019年6月29日（土）～ 2019年6月30日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員：なし	
担当者	後藤吉晃*、佐竹龍蔵、田中希和子、佐々木るり子、横山芳実、伴戸玲伊子、渡邊葉子	

科目概要と到達目標

種類の異なる複数の野菜をケント紙（F6号サイズ）に色鉛筆で写生します。
鉛筆写生と同様に、素直な気持ちでモチーフをじっくりと観察し、自然物の存在感を色で表現することを学びます。色鉛筆にはモチーフそのものの色がなく、混色も水彩絵具のように容易には出来ないの
で、自然物（今回は野菜）の複雑な色合いや質を感じながら、多種の色を用い、重ね方を工夫して微妙な色を表現していきます。2日間かけて1枚の作品を仕上げる中で、色の重ね方や筆圧による色の出し方など、色鉛筆の特性を知りその使い方の基本を学ぶことを目標とします。ここでの学習が今後の土台となります。

※本スクーリングで制作した写生を基に「日本画Ⅱ-1（水干・岩絵具併用による制作）」を行います。
大切に保管しスクーリング時には忘れずに持参してください。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取組み
2. 描写力
3. 理解度
4. 取組む姿勢
5. 完成度

上記の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に授業への取り組みと課題により総合的に評価します。

予習・復習

予習

- ・受講前にairUシラバス「日本画演習Ⅰ-1」第2課題「テキスト・教材学習」、またはシラバス巻末資料「TW（テキスト科目）編」を見て、色鉛筆の特性や進め方の手順を把握しておきましょう。
- ・色鉛筆（全色）の芯先を尖らせて、色鉛筆で自由に線を引いてみましょう。色鉛筆を寝かせて引く、

立てて引く。短く引く、長く引くなど試してください。（10時間）

復習

学んだことを忘れずに記憶を定着させるために、身近なものを描いてみましょう。一例として白い卵を1個描くのもよいと思います。陰色を色鉛筆でどのように表現するのか、よい学習になります。（15時間）

テキストと参考文献・URL

テキスト	配布資料（当日、科目担当者作成のプリントを配布します）
参考文献・URL	airUマイページ>カリキュラム一覧（シラバス）>「日本画演習Ⅰ-1」第2課題>テキスト・教材学習 松生歩『白い紙の上に日本画制作への向かい方とヒント』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学舎、2019年

課題

●事前課題 ※事前課題に取り掛かる前に必ず予習をしてください。

airUシラバス「日本画演習Ⅰ-1」第2課題テキスト・教材学習、またはシラバス巻末資料「TW（テキスト科目）編」の資料を参考にして、色鉛筆の色見本を2種類作成する。

1) 用意した色鉛筆の全色を塗る。色鉛筆の色は、芯の見た目の色と塗ったときの色とでは違いがあり、塗ってみないと正確な色がわからないので用意した色鉛筆すべての色見本を作ってください。

2) 任意の何色かを選びグラデーションを作る。

できる限り多種のグラデーションを作ると、筆圧のコントロールが身につきます。芯先にかかる力加減をコントロールして、強弱をつける体験をしてください。色鉛筆の扱いに慣れておきましょう。

●1日目・2日目の課題

モチーフを鉛筆と色鉛筆を使って、ケント紙にF6号サイズで写生する。

モチーフは南瓜（半切）、オクラ2本の予定ですが、変更する場合があります。

授業計画

●自宅学習

事前課題

●スクーリング

1日目

1～2講時

- ・モチーフの観察、配置、構図、エスキース作成についての説明
- ・実演後、構図を決めて画面に入れ、鉛筆でモチーフの輪郭を描く

3～5講時

- ・彩色について説明・実演後、大まかに彩色し量感をつかむ
- ・完成の半分位まで進めるようにする

2日目

1～2講時

- ・彩色を進める。細部もどんどん色を重ねて、モチーフの質感を追求する
- ・「日本画Ⅱ-1」スクーリングのための予習（小下絵）の作成方について説明

3～5講時

色鉛筆写生、合評（時間は4～5講時の間の予定）

受講にあたって

●持参物

事前課題（色鉛筆で作成した色見本）

鉛筆（2H～4B）、色鉛筆（油性・36色以上）、カッターナイフ、目玉クリップ、練り消しゴム、消しゴム、羽簾、写生を持ち帰るための入れもの（筒やカルトンケース等）、スリッパ（本学NC棟で開講の場合のみ）

- ・スクーリング終了後、写生作品は持ち帰りとなりますので、写生を持ち帰るための入れ物（筒やカルトンケース等、四ツ切サイズの写生1枚が入るもの）を持参してください。
- ・カルトンは貸し出ししています。（当日、各教室のアシスタントに申し出てください。）
- ・画材の用途や購入方法については「画材について」（airUシラバス「日本画Ⅰ-2」事前課題、またはシラバス巻末資料「画材編」および「画材申込編」）参照。特に、色鉛筆の購入に迷われている方は「色鉛筆」の部分をよく読んで参考にしてください。

●諸経費

実習費：600円（モチーフ、ケント紙）

- ・スクーリング終了後、指定口座より引き落としいたします。
- ・金額は変更になる場合がございます。

●その他

授業時に配布されたプリント類をまとめておくファイルを準備しておくことをおすすめします。

注意事項

事前課題があります。必ず受講までに確認し、取り組んでください。初日に持参・提出のない場合は単位認定されません。

S	日本画Ⅱ－1 水干・岩絵具併用による制作 科目コード： 61003
配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	なし ※ただし、本画制作の下絵となる「日本画Ⅰ-2」での制作物が必要です。「日本画Ⅱ-1」を「日本画Ⅰ-2」より先に受講される場合は、「日本画Ⅰ-2」と同等の色鉛筆写生（下記参照）が必要です。 ・色鉛筆写生は、ケント紙四つ切サイズ、またはF10号サイズのスケッチブックのおよそ中央あたりに、F6号（41.0×31.8cm）の大きさの四角を鉛筆で書き、その大きさを目安に写生してください。 モチーフ：南瓜（半分にカットしたもの）1個、オクラ2本。 ※本科目は「日本画Ⅰ-1」および「日本画Ⅰ-2」「日本画Ⅰ-3」履修後を想定し内容を設定しています。可能な限り、これらを先に受講してください。
開講日程・開講地・定員	日本画Ⅱ－1(水干・岩絵具併用による制作)a 開催日程：2019年6月22日（土）～ 2019年6月23日（日）, 2019年7月6日（土）～ 2019年7月7日（日） 開催地：京都、受講料： ￥26,000、定員： なし 日本画Ⅱ－1(水干・岩絵具併用による制作)b 開催日程：2019年7月6日（土）～ 2019年7月7日（日）, 2019年7月27日（土）～ 2019年7月28日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥32,000、定員： 45 日本画Ⅱ－1(水干・岩絵具併用による制作)c 開催日程：2019年8月10日（土）～ 2019年8月11日（日）, 2019年8月24日（土）～ 2019年8月25日（日） 開催地：京都、受講料： ￥26,000、定員： なし
担当者	後藤吉晃*、佐竹龍蔵、田中希和子、佐々木るり子、横山芳実、伴戸玲伊子、颯川麻美子、渡邊葉子 他

科目概要と到達目標

「日本画Ⅰ-2（色鉛筆写生）」の写生を基に、事前課題で準備したF6号のパネルに日本画制作をします。彩色の工程から始め、作品を完成させることを目標とします。彩色の最初は水干絵具での下塗りから初め、背景とモチーフを段階を経て徐々に詳細に描きこみ、作品を仕上げていく手順を体験します。また、「日本画Ⅰ-3（制作の基本）」で学んだ絵具の種類や重ね方や筆使いなどを更に深く学び、画材の扱い方の習熟を目指します。これまでの写生課題と違い、背景も彩色することによりモチーフと背景の関係や空間を表現することも学びます。

ここでの学習が、その後の各演習課題・スクーリング課題制作の基礎になります。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み方
2. 描写力

3. 表現力
4. 理解度
5. 取組む姿勢
6. 完成度

上記の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に授業への取り組みと課題により総合的に評価します。

予習・復習

予習

受講前にairUシラバス「日本画演習Ⅰ-2」第2課題テキスト・教材学習、またはシラバス巻末資料「TW（テキスト科目）編」を見て、進め方の手順を把握しておきましょう。

「日本画Ⅰ-3」スクーリングで学習した絵具の種類や特長を確認し知識を定着してください。

また、「日本画Ⅰ-2」受講時の説明を参考に小下絵を作成しておいてください。背景の色を決め、絵具も具体的に考えられる範囲で考えておきましょう。「日本画Ⅰ-2」および「日本画Ⅰ-3」未受講の方は、小下絵作成について授業内で説明を受け、作成します。（15時間）

復習

スクーリング時に配布した「絵具着彩シート」を完成させることで、絵具の扱い方を思い出してください。また、絵具着彩シートの内容の応用として、いろいろな混色を試してみると思わぬ発見があるでしょう。材料や技法の習熟につながるだけでなく、表現力の土台にもなります。（25時間）

テキストと参考文献・URL

テキスト	配付資料（当日、科目担当者作成のプリントを配付します。）
参考文献・URL	airUマイページ>カリキュラム一覧（シラバス）>「日本画演習Ⅰ-2」第1課題>テキスト・教材学習 松生歩『白い紙の上に一日本画制作への向かい方とヒント』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学舎、2019年

課題

●事前課題 ※事前課題に取り掛かる前に必ず予習をしてください。

- ・トレーシングペーパーに大下絵（F6号サイズ）を作成する。
- ・大下絵を「日本画Ⅰ-3」受講時に水張りしたF6号パネルに転写、骨描きし、胡粉塗りまで進めておく。「日本画Ⅰ-3」未受講の方は、airUシラバス「日本画演習Ⅰ-2」第2課題テキスト・教材学習、またはシラバス巻末資料「TW（テキスト科目）編」を参照してください。

●1日目～4日目の課題

「日本画Ⅰ-2」で作成した写生を基に、事前課題で準備したF6号のパネルに水干絵具、岩絵具を用いて制作する。

授業計画

●自宅学習

事前課題

●スクーリング

1日目

1講時

- ・絵具の扱い方と背景の進め方、塗り方について説明、実演

2講時

- ・小下図の確認から、本紙制作（背景下塗り）

3～4講時

- ・背景を先行して進め、下地をつくる

5講時

- ・背景下地作り。水干絵具でモチーフにも色を入れる。
- ・モチーフの塗り方実演。背景下地からモチーフ下地塗り

2日目

1～5講時

- ・背景を先行しながら制作、下地塗りから第2段階へ、膠濃度に注意して描き進める

3日目

1～5講時

- ・制作

4日目

1～3講時

- ・制作

4～5講時

- ・合評、後片付け

受講にあたって

●持参物

事前課題（準備したF6号パネル）

大下絵、予習で作成した小下絵、「日本画Ⅰ-2」で制作した課題（写生）

※「日本画Ⅰ-2」を未受講で本科目を受講される場合は、「日本画Ⅰ-2」と同等の作品（色鉛筆写生）および、事前課題が必要です。（履修の前提条件参照）

画材一式

「持参物（画材）」（airUシラバス「日本画Ⅱ-1」事前課題、またはシラバス巻末資料「S（スクーリング科目）編」参照）

梱包材料（段ボール箱等。スクーリング終了後に道具・手荷物を発送する必要がある場合のみ）

- ・スクーリング終了後、写生・作品（F6号パネル）は持ち帰りになります。
- ・下記の画材を貸出しています。（当日、各教室のアシスタントに申し出てください。）
カルトン、乳鉢、乳棒、膠なべ（行平）、硯、梅皿

【膠の種類について】

固形の膠には各メーカー色々な種類があり、棒状のものと粒状のものがあります。購入しやすいものでかまいませんが、スクーリングにはどこのメーカーのものかわかる様にして持参してください。

膠は前日に瓶等でふやかしたものを持参してください。

●諸経費

実習費：100円（新鳥の子紙）

- ・スクーリング終了後、指定口座より引き落としいたします。
- ・金額は変更になる場合がございます。

注意事項

事前課題があります。必ず受講までに確認し、取り組んでください。事前課題が初日に持参、提出のない場合は単位認定されません。

S	日本画Ⅲ－1 植物写生 科目コード： 61005
配当年次	2年次～
単位数	1
履修の前提条件	なし ※本科目は「日本画Ⅰ-1」および「日本画Ⅰ-2」履修後を想定し内容を設定しています。写生の技法を修得しておくことが必要ですので、可能な限りこれらを先に受講してください。
開講日程・開講地・定員	日本画Ⅲ－1(植物写生)a 開催日程：2019年10月5日（土）～ 2019年10月6日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥16,000、定員：35 日本画Ⅲ－1(植物写生)b 開催日程：2019年10月12日（土）～ 2019年10月13日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員：なし
担当者	佐々木るり子*、太田利花、後藤吉晃、横山芳実、木下千春 他

科目概要と到達目標

「日本画Ⅲ-2（植物制作）」のために切花（百合）を写生します。2日間で1種類の花を描きますが、植物写生も静物写生と同じように花の骨格を良く観察して、そのものらしさを捉えることに変わりはありません。植物は、静物に比べ、形が刻々と変化し、良い形を捉えるのが難しいですが、それが植物の魅力です。植物と同じ息遣いをするくらいの気持ちでその美しさを写し取りましょう。花の軽やかさ、柔らかさを感じながら、選んだ花のどこに惹かれたのか、どのような作品にするのかもイメージして、2日間で可能な限り写生をし制作に繋がる写生が出来ることを目標としてください。ひたすら無心に植物に肉薄することで観察力、描写力を更に高めてください。

※この授業で行う写生が「日本画Ⅲ-2」の制作の基となります。大切に保管し、スクーリング時には忘れずに持参してください。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
2. 描写力
3. 理解度
4. 取組む姿勢
5. 対象の選択にあたっての意図
6. 完成度

上記の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に授業への取り組みと課題により総合的に評価します。

予習・復習

予習

変化の早い切花に慣れるため、好きな花を描いてみましょう。線だけの描写でも、簡単に彩色したものでも、どのような描き方でも構いません。何か感じるものがあれば、メモしておき、事前課題に役立てましょう。描くにあたりairUシラバス「日本画Ⅰ-3」事前課題、またはシラバス巻末資料「S（スクー

リング科目編)」を参考にしてください。(20時間)

復習

花は刻々と変化するので、生命の美しさをつぶさに感じる事が出来るものです。テキスト『基礎から学ぶ日本画』pp.12~13「感性で肉薄する大切さ」および、pp.14~15「はじめに」の部分には、なぜ写生は大切なのか、必要なのか、そして、写生と制作の関係についても触れています。このスクーリングで描いた植物写生をもとに、天井絵を制作しますので、熟読して参考にしてください。(5時間)

テキストと参考文献・URL

テキスト	『基礎から学ぶ日本画』pp.12~15 『日本画の制作を学ぶ』p.19、pp.38~49、pp.68~71 配布資料(科目担当者作成のプリントを配布します。)
参考文献・URL	airUマイページ>カリキュラム一覧(シラバス)>「日本画Ⅰ-3」>事前課題 松生歩『白い紙の上に一日本画制作への向かい方とヒント』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学舎、2019年

課題

●事前課題 ※事前課題に取り掛かる前に必ず予習をしてください。

airUシラバス「日本画Ⅰ-3」事前課題、またはシラバス巻末資料「S(スクーリング科目)編」を参考に、オリエンタル系の百合1本以上を、色鉛筆写生すること。用紙は、手持ちのF10号スケッチブック、またはバロンケント紙(四つ切サイズ)。

●1日目・2日目の課題

- ・オリエンタル系の百合(ピンク系濃淡2~3種類、白、黄色)の中から、好きな百合を選んで、2日間、同種類の百合を出来るだけ多く描きます。
- ・制作では直径29cmの円の中に入れますが、写生時にはこだわらずに丸ごと1本描き、花の仕組みを理解します。

※2日間で最低2枚描くことを目指します。ケント紙は5枚配布(枚数はあくまでも目安)。事前課題とスクーリングも2日間で制作に繋がる写生を目指します。

授業計画

●自宅学習

事前課題

●スクーリング

1日目

1講時

- ・導入、描き進め方の手順(実演)花選び 写生

2~4講時

- ・写生

5講時

- ・写生
- ・植物制作のための構図、および、「日本画Ⅲ-2」の事前課題について説明

2日目

1～2講時

- ・構図を意識しつつも制作に直接関係ない部分も描き、ひたすら写生する（鉛筆・色鉛筆）

3～5講時

- ・写生
- ・15時頃から個別に寸評（予定）

受講にあたって

●持参物

事前課題

写生道具一式（鉛筆、色鉛筆、カッターナイフ、カルトン（会期中貸出可能）、目玉クリップ、練り消しゴム等）、写生を持ち帰るための入れ物（筒やカルトンケース等、四つ切サイズのケント紙5枚が入るもの、スリッパ（本学NC棟で開講の場合のみ）

- ・期間中は花の状態を保つため室温を低めにしますので、温度調整しやすい服装を心がけてください。
- ・種類により差はありますが、百合の花はかなり強く香る場合がありますので、苦手な方はマスクをご持参ください。
- ・梱包材料のうち、布ガムテープは大学で用意します。
- ・カルトンは貸し出ししています。（当日、各教室のアシスタントに申し出てください。）

●諸経費

実習費：1,300円（モチーフ、ケント紙）

- ・スクーリング終了後、指定口座より引き落としいたします。
- ・金額は変更になる場合がございます。

注意事項

- ・事前課題があります。必ず受講までに確認し取り組んでください。初日に持参・提出のない場合は単位認定されません。
- ・「日本画Ⅲ-2」に使用するパネルS（スクエア）5号は一般的なサイズではないため、事前注文が必要になり、入手まで時間が掛かります。「日本画Ⅲ-1」～「日本画Ⅲ-2」まで、期間が短い場合は各自で早めの準備を心がけてください。ADストア、鴻業堂で申し込みが可能ですが、他の画材店でご用意いただいても構いません。

S	日本画Ⅲ－2 植物制作	科目コード： 61006
配当年次	2年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※ 本画制作の下絵となる「日本画Ⅲ-1」での制作物が必要です。「日本画Ⅲ-2」を先に受講される場合は、「日本画Ⅲ-1」と同等の色鉛筆写生（下記参照）が必要です。 ・色鉛筆写生（ケント紙四つ切サイズ3枚以上、モチーフ：白または黄またはピンクのオリエンタル系の百合）	
開講日程・開講地・定員	日本画Ⅲ－2(植物制作)a 開催日程：2019年10月26日（土）～ 2019年10月27日（日）, 2019年11月9日（土）～ 2019年11月10日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥32,000、定員：35 日本画Ⅲ－2(植物制作)b 開催日程：2019年10月26日（土）～ 2019年10月27日（日）, 2019年11月16日（土）～ 2019年11月17日（日） 開催地：京都、受講料： ¥26,000、定員：なし	
担当者	佐々木るり子*、後藤吉晃、西嶋豊彦、太田利花、田中希和子、小滝雅道、横山芳実、木下千春	

科目概要と到達目標

「日本画Ⅲ-1（植物写生）」の写生を基に、35cm四方のパネルに金箔・絵具で制作します。金や銀などの金属は、歴史上とても古くから世界中で装飾品や絵画などに幅広く使用されてきました。日本においても箔による表現は日本絵画の特色の一つとして数多くの作品を生んでいます。これまでは絵具のみで表現してきましたが、今回は箔の様々な技法と使用法を学び今後の表現に幅を持たすことを目標とします。

寺院の天井絵をイメージして四角いパネルの中に直径29cmの円を描き、その中に花を描き周囲に金箔を貼ります。金箔の美しさに負けないように円の中の花も円外とのバランスを取りながら、花の生命感を大切にしっかりと描くことを学びます。また、絵具や絵筆の扱い方も再確認します。最終日に、天井絵のように全員の作品を並べて鑑賞し合評します。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
2. 絵画表現としての描写力
3. 表現力
4. 理解度
5. 構成力
6. 取組む姿勢
7. 制作意図
8. 完成度

上記の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に授業への取り組みと課題により総合的に評価します。

予習・復習

予習

この科目は箔の種類はもとより、多様な表現方法および扱い方等、非常に複雑な行程を含みます。受講前にairUシラバス「日本画Ⅲ-2」事前課題、またはシラバス巻末資料「S（スクーリング科目）編」を繰り返し見て、内容を把握しておきましょう。（10時間）

4日間をとおして新しいことを多く学びますので、時間に余裕がありません。既に学んだ基礎的な内容（紙の裏表の見分け方、刷毛の使い方などのポイントを含めた水張りの手順、胡粉団子作り、水干絵具・岩絵具の溶き方の手順や注意点など）がスムーズに出来るようにしておきましょう。花びら1枚、葉っぱ1枚を描いてみると良いでしょう。（25時間）

復習

このスクーリングでは多様な技法を学びますので終了直後は飽和状態になっていることと思いますが、時間が経過して描きたいものに会えたときに、ふと使ってみたい技法を思い出すこともきっとあるはずです。3年次の人物制作や風景制作、卒業制作に箔の技法を用いる方も多くおられます。そのときには、今回の資料はきっと役に立ちます。膠やドーサの濃度が表現により様々に違いますので、忘れないうちに整理して保管しておきましょう。（10時間）

テキストと参考文献・URL

テキスト	配布資料（当日、科目担当者作成のプリントを配布します。）
参考文献・URL	airUマイページ>カリキュラム一覧（シラバス）>「日本画Ⅲ-2」>事前課題 松生歩『白い紙の上に一日本画制作への向かい方とヒント』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局藝術学舎、2019年

課題

- 事前課題 ※事前課題に取り掛かる前に必ず予習をしてください。
 - ・「日本画Ⅲ-1」の写生を基に、エスキースを作り構図を考え大下絵（トレーシングペーパー）を作成。パネルに雲肌麻紙を水張り、転写、骨描き、胡粉塗りと小下絵作成までを準備してください。円の形のみ、スクーリング初日に円の型紙を用いて引きますので、円の転写・骨描きは不要です。
 - ・事前課題についての詳細は、airUシラバス「日本画Ⅱ-1」事前課題、またはシラバス巻末資料「S（スクーリング科目）編」を参照。
 - ・「日本画Ⅲ-1」未受講の方は、「日本画Ⅲ-1」と同様の写生をし、その写生を基に事前課題を準備してください。

- 1日目～4日目の課題

「日本画Ⅲ-1」で作成した写生を基に事前課題で準備したS5号サイズのパネルに、金箔、水干・岩絵具で制作する。

授業計画

- 自宅学習
事前課題

●スクーリング

1日目（詳細な進行表を渡します）

1～2講時

- ・持参したパネルに、円の型紙を当てて鉛筆で円を写す
- ・面ぶたをする（説明実演）
- ・面ぶたの乾き待ちに箔表現についての説明（DVD「金箔が出来るまで」）を見る
- ・マチエール実演後、円の外の表現を考える

3講時

- ・箔下（円の外）の下地塗り後、ドーサ液で定着させ、乾かす

4～5講時

- ・乾き待ちの間に箔あかし、箔押し、箔の補修等の説明、実演

2日目

1～2講時

- ・箔押し
- ・面ぶたはがし、制作（円中の背景と花の下塗り）

3講時

- ・面ぶたはがし、円の中を彩色（彩色説明、実演）

4～5講時

- ・背景の下地塗りから始める

3日目

1～2講時

- ・制作
- ・金箔の擦り出し、円中と円外のバランスを見ながら制作

3～5講時

- ・制作、砂子蒔き

4日目

1～2講時

- ・制作、砂子の説明・実演、砂子蒔き、全体のバランスをみて細部を仕上げる

3講時

- ・砂子蒔き

4～5講時

- ・作品鑑賞、合評

受講にあたって

●持参物

事前課題（準備したS（スクエア）5号サイズのパネル）、大下絵、小下絵、「日本画Ⅲ-1」で制作した課題（授業で制作した写生の全て）

※「日本画Ⅲ-1」を未受講で本科目を受講される場合は、「日本画Ⅲ-1」と同等の色鉛筆写生が必要です。（履修の前提条件参照）

岩絵具、水干絵具、絵具皿（直径約15cm1枚、直径約13cm3枚、直径約10cm3枚、直径約8cm10枚程度）、筆洗、膠（固形状の膠を溶かした状態で持参。但し、播州A膠溶液の場合はそのまま）墨、水さじ、胡粉、雑巾、鉄筆（ボールペン可）、筆（平筆/8号・5号各1本、彩色筆/大・中各1本、隈取筆/中1本、削用筆/小1本、面相筆/中1本程度）、刷毛（幅6cm、9cm位のもの各1本）、鉛筆、練り消しゴム、小ピン2個（ジャムの空きピンなど口径5～8cmのもの。胡粉団子保存・膠液の小分け用）、はさみ、紙質が藁半

紙の不要な雑誌（箔あかしに使用するため、グラビアなどのツルツルの紙面は不可。電話帳などが適当）、新聞紙（朝刊1日分）、カッターナイフ、スリッパ（本学NC棟で開講の場合のみ）、梱包材料（段ボール箱等。スクーリング終了後に道具・手荷物を発送する必要がある場合のみ）

- ・固形の膠には各メーカー色々な種類があり、棒状のものと粒状のものがあります。購入しやすいものでかまいませんが、スクーリングにはどこのメーカーのものかわかる様にして持参してください。
- ・筆の種類や本数は目安です。各自使いやすいものをお持ちください。
- ・スクーリング終了後、写生・作品（S5号サイズパネル）は持ち帰りとなります。
- ・梱包材料のうち、布ガムテープは大学で用意します。
- ・下記の画材を貸出しています。（当日、各教室のアシスタントに申し出てください）
乳鉢、乳棒、膠なべ（行平）3～4人に1個、硯、梅皿、箔箸、砂子筒、ばれん
- ・箔は1万分の1mmの金属といわれる非常に薄いもので、わずかな風でも破れたり皺になったりします。箔の使用中はエアコンを停止することもありますので、温度調節のできる服装を心がけてください。

●諸経費

実習費：3,200円（純金箔10枚、うつし紙10枚、美濃紙1枚）

- ・スクーリング終了後、指定口座より引き落としいたします。
- ・金額は変更になる場合がございます。

注意事項

・事前課題があります。必ず受講までに確認し取り組んでください。初日に持参・提出のない場合は単位認定されません。

・事前課題に必要な雲肌麻紙の入手法

お手持ちの雲肌麻紙（テキスト課題の残りなど）があれば使用しても構いません。ただし最低でも39cm×39cmの大きさが必要です。購入される場合はADストア、または鴻業堂の申込書で、課題1枚分から購入できます。その他画材店でも購入が可能ですが、最小の大きさが三六判（188cm×97cm）になります。

S5号パネルも上記記載の画材店、および他画材店で購入できますが、入手に時間が掛かります。早め（「日本画Ⅲ-1（植物写生）」受講前）の購入を心がけてください。

S	日本画Ⅳ－1 剥製写生 科目コード： 61007
配当年次	2年次～
単位数	1
履修の前提条件	なし ※本科目は「日本画Ⅰ-1」および「日本画Ⅰ-2」程度の写生の技法を修得していることを前提に授業を行います。可能な限り、これらを先に受講してください。
開講日程・ 開講地・定員	日本画Ⅳ－1(剥製写生)a 開催日程：2019年11月30日（土）～ 2019年12月1日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員：なし 日本画Ⅳ－1(剥製写生)b 開催日程：2020年1月25日（土）～ 2020年1月26日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥16,000、定員：35
担当者	後藤吉晃*、木田久美子、佐々木るり子、鳥山武弘、穎川麻美子、小滝雅道、伴戸玲伊子

科目概要と到達目標

鳥の剥製を写生します。様々なモチーフを写生することで、基礎的な観察力や描写力をより高めます。生きている動物は魅力的なモチーフですが、動いているものの形を捉えることは難しいので、このスクーリングではじっくりと観察できる剥製を描きます。基本的な骨格から細部にいたるまでを理解し、今後動物を描くことのきっかけにしてください。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
2. 描写力
3. 表現力
4. 理解度
5. 構成力
6. 取組む姿勢
7. 完成度

上記の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に授業への取り組みと課題により総合的に評価します。

予習・復習

予習

このスクーリングでは鳥の剥製を写生しますが、野鳥やペットなど身近な生きた動物をじっくりと観察してみてください。小さな紙にクロッキー（短時間で素早く写生すること）をしてみるのもよいでしょう。本来動物は動くものです。描く際には骨格など身体の構造や生態を意識することも重要ですから、図鑑などで観察した動物について調べてみましょう。（約15時間）

復習

授業中のメモや自身で感じたことなどを整理しておきましょう。
それらも参考にして、写生を基にF6サイズの大きさに本画制作することを想定し、大下絵・小下絵を作成してみましょう。写生からの制作過程に対して、より理解が深まります。（約10時間）

テキストと参考文献・URL

テキスト	配布資料（当日、科目担当者作成のプリントを配布します）
参考文献・URL	airUマイページ>カリキュラム一覧（シラバス）>「日本画演習Ⅰ-1」第2課題および「日本画演習Ⅰ-2」第1課題>テキスト・教材学習 松生歩『白い紙の上に一日本画制作への向かい方とヒント』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学舎、2019年

課題

●事前課題

このスクーリングは、2日間で鉛筆と色鉛筆を使い写生します。写生の基本をよくおさらいしておきましょう。これまでの色鉛筆写生の課題とモチーフが変わっても形の捉え方、彩色の仕方、観察や描写の仕方は変わりません。写生の基礎については、airUシラバス「日本画演習Ⅰ-1」第2課題および「日本画演習Ⅰ-2」第1課題のテキスト・教材学習、またはシラバス巻末資料「TW（テキスト科目）編」参照。

●1日目・2日目の課題

・剥製は、ウグイス程度の小鳥から鳩程度の大きさの鳥を用意しています。1体を数人で囲んで描きます。描く鳥を決めた後、どの位置（角度や、視点の高低）から見た形が良いかを決めるためにクロッキーを2～3枚します。写生は、中程度の大きさの鳥なら1羽で充分ですが、小鳥であれば2～3羽程度はあった方が良いでしょう。

・写生は「日本画Ⅰ-1（鉛筆写生）」、「日本画Ⅰ-2（色鉛筆写生）」と同様です。対象に素直に向かい骨格を意識して形を捉えるようにしましょう。1日目で大まかな形や量感を掴み、2日目は、羽の模様や目、足の細部などを時間内で可能な限り細密に描きましょう。

・絵画制作では対象を描くだけではなく、背景（空間）をどのように表現するのも同じくらい大切です。写生をしながらどのような作品にしたいのか、色や雰囲気イメージしておきましょう。

授業計画

●自宅学習

事前課題

●1日目

1講時

・導入

2～5講時

・鉛筆、色鉛筆での写生

●2日目

1～3講時

・色鉛筆での写生

4～5講時

・全体講評

- ・草稿、小下絵の作成
- ・後片付け

受講にあたって

●持参物

鉛筆(2H～4B)、色鉛筆(油性・36色以上)、目玉クリップ、練り消しゴム、羽簞、はさみ、カッターナイフ、写生を持ち帰るための入れもの(筒やカルトンケース等)、ルーペ(鳥の羽や色の変化等細かい部分を観察するために必要な場合)、スリッパ(本学NC棟で開講の場合のみ)、梱包材料(段ボール箱等。スクーリング終了後に道具・手荷物を発送する必要がある場合)

- ・スクーリング終了後、写生作品は持ち帰りとなりますので、写生を持ち帰るための入れもの(筒やカルトンケース等、四ツ切サイズの写生1枚が入るもの)を持参してください。
- ・梱包材料のうち、布ガムテープは大学で用意します。
- ・カルトンは貸し出ししています。(当日、各教室のアシスタントに申し出てください。)

●諸経費

諸経費の引き落としはありません。

注意事項

- ・事前課題があります。必ず受講までに確認し、取り組んでください。

【2018年度までに「日本画Ⅱ-2(剥製/写生と制作)」を受講された方】
再度、剥製の写生を描かなくても問題はありません。その際には、違うモチーフを用意します。「日本画Ⅳ-2(剥製制作)」を続けて受講される際も、その写生を基に制作して構いません。

S	日本画Ⅳ－2 剥製制作 科目コード： 61008
配当年次	2年次～
単位数	2
履修の前提条件	なし ※本科目は「日本画Ⅰ-3」および「日本画Ⅱ-1」程度の日本画の技法を修得していることを前提に授業を行います。可能な限り、これらを先に受講してください。 ※本画制作の下絵となる「日本画Ⅳ-1」での制作物がが必要です。「日本画Ⅳ-1」未受講の場合は、「日本画Ⅳ-1」と同等の色鉛筆写生が必要です。
開講日程・ 開講地・定員	日本画Ⅳ－2(剥製制作)a 開催日程：2019年12月14日（土）～ 2019年12月15日（日）, 2020年1月18日（土）～ 2020年1月19日（日） 開催地：京都、受講料： ¥26,000、定員：なし 日本画Ⅳ－2(剥製制作)b 開催日程：2020年2月1日（土）～ 2020年2月2日（日）, 2020年2月22日（土）～ 2020年2月23日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥32,000、定員：35
担当者	後藤吉晃*、木田久美子、佐々木るり子、鳥山武弘、穎川麻美子、小滝雅道、伴戸玲伊子

科目概要と到達目標

「日本画Ⅳ-1（剥製写生）」を基に、F6号パネルの画面に水干絵具・岩絵具で制作します。様々なモチーフを描くことで、基礎的な観察力や描写力をより高めます。基本的な骨格から細部にいたるまでを理解し、その描法を学ぶことで今後動物を描くことのきっかけにしてください。また、岩絵具のいろいろな表現技法（海綿やローラーといった、筆以外の道具を用いて絵具を定着させる等）を学び、自身の表現に繋げます。様々な技法を試してみることで絵具の魅力を知り、楽しみながら扱い方に慣れることを目標とします。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
2. 描写力
3. 表現力
4. 理解度
5. 構成力
6. 取組む姿勢
7. 完成度

上記の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に授業への取り組みと課題により総合的に評価します。

予習・復習

予習

このスクーリングは、4日間で本画制作をします。「日本画Ⅰ-3」、「日本画Ⅱ-1」の応用編ともいえる内容です。モチーフが変わっても基本的な形の捉え方や彩色の仕方、描写の仕方は変わりません。胡粉団子の作り方や溶き方、絵具の溶き方など作品を描く上での基礎について、これまでの課題で学んだ内容の確認をしておきましょう。（約10時間）

・復習

授業中のメモや自身で感じたことなどを整理し、「日本画Ⅰ-3」、「日本画Ⅱ-1」と「日本画Ⅳ-2」での制作過程や膠の濃度などの違いに留意して復習しておきましょう。

また、本科目で学んだマチエール（絵肌）による表現で作品を描いてみましょう。F6号サイズ程度の大きさと、スクーリングで描いたものと違うモチーフを描いてみてください。制作過程や絵具の扱いに対して、より理解が深まります。（約40時間）

テキストと参考文献・URL

テキスト	配布資料（当日、科目担当者作成のプリントを配布します。）
参考文献・URL	airUマイページ>カリキュラム一覧（シラバス）>「日本画Ⅳ-2」>事前課題 松生歩『白い紙の上に日本画制作への向かい方とヒント』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学舎、2019年

課題

●事前課題

このスクーリングでは、4日間で写生を基にF6号の大きさと本画制作します。事前に、大下絵（トレーシングペーパーにトレース）と小下絵を作成し、F6号のパネルに雲肌麻紙の水張り、胡粉下地塗りまでをしてくること。

※小下絵の作成にあたり、学生作品例（airUシラバス「日本画Ⅳ-2」事前課題、またはシラバス巻末資料「S（スクーリング科目）編」）を参照。

※今回は水張りの後に胡粉下地を塗ります。本紙へのトレース・骨描きはクーリング内で行いますので、事前課題では施さないでください。

《「日本画Ⅳ-1（剥製写生）」を未受講の方》

「日本画Ⅳ-1（剥製写生）」受講相当の写生を描き、事前課題をしてきてください。写生は、F6号サイズの大きさに適当な小動物（例えば鳥や金魚、亀など）とします。中程度の大きさの鳥なら1羽で充分ですが、小鳥であれば2～3羽程度はあった方が良いでしょう。鳥以外の小動物の場合も同様です。対象に素直に向かい、骨格を意識して形を捉えるようにしましょう。大まかな形や量感を掴んだ後は、羽や毛の様子、模様、目や足の細部などを可能な限り細密に描きましょう。

《2018年度までに「日本画Ⅳ-1（水彩写生）」を履修済の方は》
スクーリングで描いた水彩写生を基に制作しても構いません。

●1日目・2日目の課題

・絵画制作では対象を描くだけではなく、背景（空間）をどのように表現するのも同じくらい大切です。写生や下絵を基に、どのような作品にしたいのか色や雰囲気を考えます。

・写生は実物に忠実に描きその鳥の特徴を掴むことが大切ですが、制作では剥製であることにこだわらず、自然の中に鳥がいるような表現をしても構いません。鳥の色や背景などは自由にイメージを広げて

みましょう。

・背景はモチーフに合った色を選ぶだけではなく、何もない空間に質感を与えることも必要です。絵具を積極的に使うための手がかりとしてマチエール（絵肌）による表現を試みます。筆以外の道具（ローラー、海綿、ペインティングナイフ、木の葉など）に絵具をつけて定着させるなど、様々な表現方法を実演しますので、それを参考にして別紙に試しながら作成します。

・色や雰囲気が決まれば、下塗りを数回した後でトレースし、墨または水干絵具（表現に合う色）で骨描きします。背景を先行しながら鳥も描いていきます。

・背景もモチーフと同じくらい大切ですが、主役はあくまでも鳥であることを念頭に置き、背景とのバランスをみながら、鳥をしっかり描き込みましょう。ポイントになる目や足、羽の柔らかさや模様などの細部も全体の調子を見ながら描き込み、存在感が出るよう表現しましょう。

授業計画

●自宅学習

事前課題

●スクーリング

1日目

1講時

・導入、表現技法の説明・実演

2～5講時

・マチエールの構想と試作、トレース、制作

2日目

1～5講時

・トレース、骨描き、制作

3日目

1講時

・鳥の彩色実演

2～5講時

・制作

4日目

1～3講時

・制作

4～5講時

・合評、後片付け

受講にあたって

●持参物

事前課題（水張りして胡粉塗りまで終えたF6号パネル、大下絵、小下絵）、写生

鉛筆(2H～4B)、目玉クリップ、練り消しゴム、はさみ、カッターナイフ、写生および作品を持ち帰るための入れもの（カルトンケース等）、水干絵具、岩絵具、墨、胡粉、膠、絵具皿（直径約15cm1枚、約13cm3枚、約10cm3枚、約8cm10枚程度）、筆洗（9cmの刷毛が入る大きさのもの、例えば「角筆洗」18×13×7.8cm/ホルバイン社製）、雑巾、水さじ、小ビン2個（ジャムの空きビンなど口径5～8cmのもの。胡粉団子保存・膠液の小分け用）、筆(平筆/8号・5号各1本、彩色筆/大・中各1本、則妙筆中位1

本、隈取筆/中1本、削用筆/小1本、面相筆/中1本・小1本程度)、絵刷毛(幅6cm、9cm位のもの各1本)、ルーペ(鳥の羽や色の変化等細かい部分を観察するために必要な場合)、スリッパ(本学NC棟で開講の場合のみ)、梱包材料(段ボール箱等。スクーリング終了後に道具・手荷物を発送する必要がある場合)

- ・スクーリング終了後、写生・作品(F6号パネル)は持ち帰りとなります。
- ・梱包材料のうち、布ガムテープは大学で用意します。
- ・下記の画材を貸出しています。(当日、各教室のアシスタントに申し出てください)
カルトン、乳鉢、乳棒、膠なべ(行平)、硯、梅皿

●諸経費

諸経費の引き落としはありません。

注意事項

・事前課題があります。必ず受講までに確認し、取り組んでください。初日に持参・提出のない場合は単位認定されません。

・事前課題に必要な雲肌麻紙の入手法

お手持ちの雲肌麻紙(テキスト課題の残りなど)があれば使用しても構いません。ただし最低でも45.0cm×34.8cmの大きさが必要です。購入される場合はADストア、または鴻業堂の申込書で、課題1枚分から購入できます。その他画材店でも購入が可能ですが、最小の大きさが三六判(188cm×97cm)になります。

●学習上の留意点

1) トレースする順番と骨描きの素材(墨と水干絵具)が、「日本画Ⅰ-3」、「日本画Ⅱ-1」スクーリングとは異なります。「日本画Ⅱ-1」で学んだ手順はもっともオーソドックスなものですが、表現したい内容によっては、同じ工程でも順序や素材を変えた方が良い場合もあることを知ってほしいと思います。

2) 下地塗りやマチエールをする時は膠の濃度は通常より濃くなります(膠で溶き、加える水の量を少なくします)。水の量はマチエールの種類により若干異なりますので、その調整の具合を学びます。鳥は通常の濃度で溶いた絵具で描きます。

S	日本画Ⅴ－１（人物） 人物写生 科目コード： 61009
配当年次	3年次～
単位数	2
履修の前提条件	「日本画演習Ⅱ-1」を合格済みであること。 ※本科目は「日本画Ⅰ-1」～「日本画Ⅱ-1」履修後を想定し内容を設定しています。写生の技法を修得しておく必要がありますので、可能な限り、これらを先に受講してください。 ※「日本画Ⅴ-1・2・3」「日本画Ⅴ-4・5・6」のいずれかを選択必修。 ※選択必修を終えた上で、希望者のみもう一方を履修することが可能です。 ※今年度卒業制作に着手される方が「卒業制作3～6」の履修の前提条件を満たすために卒業制作と並行して履修する場合は、東京会場の日程のみ履修が可能です。
開講日程・ 開講地・定員	日本画Ⅴ－１(人物写生)a 開催日程：2019年4月27日（土）～ 2019年4月28日（日）, 2019年5月5日（日）～ 2019年5月6日（月） 開催地：東京■、受講料： ¥32,000、定員：25 日本画Ⅴ－１(人物写生)b 開催日程：2019年10月19日（土）～ 2019年10月20日（日）, 2019年11月2日（土）～ 2019年11月3日（日） 開催地：京都、受講料： ¥26,000、定員：なし
担当者	佐竹龍蔵*, 松生歩、真鍋修、行近壯之助、橋本明子、表地久美子

科目概要と到達目標

モデルを写生し、40号大の人物画の草稿へと進めていきます。

モデルにコスチュームとヌードで同一のポーズを4日間繰り返してもらい、学生は自分が選んだ位置から写生を行い、小下絵、草稿へと練り上げていきます。

人体を客観的に観察し、その構造や特性を理解することはもちろんですが、それだけで終わりにせず、人体の形を通して自分の感じたことや想いを伝えられるよう、絵画を創造する力を養うことを学習達成目標とします。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
2. 描写力
3. 観察力
4. 取り組む姿勢
5. 完成度

上記の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に授業への取り組みと課題により総合的に評価します。

予習・復習

予習

テキスト『基礎から学ぶ日本画』の自画像の項、テキスト『日本画の制作を学ぶ』の人物、子どもまたは家族、ヌードの項を読んでおきましょう。

受講前にairUマイページのWeb教材やシラバス巻末資料などを見て、受講内容について理解を深めるようにしてください。また技法・材料に関する様々な専門用語が数多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。（約20時間）

復習

自分が描いている写生を確認して、プロポーションの違和感がないか、授業でのアドバイスをもとにチェックしておきます。また、古今東西の人物画の作例を調べ、自分が描いている写生から制作へ結びつくイメージを固めていきます。教科書の人物画の項も読んでおきましょう。（約20時間）

テキストと参考文献・URL

テキスト	『基礎から学ぶ日本画』『日本画の制作を学ぶ』
参考文献・URL	airUマイページ>カリキュラム一覧（シラバス）>「日本画V-1」>事前課題 松生歩『白い紙の上に一日本画制作への向かい方とヒント』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局藝術学舎、2019年

課題

●事前課題

※この科目では後半受講の事前に課すものとします。

前半で描いた写生をもとに、40号サイズの草稿への引き延ばし作業を進めてください。また、背景のイメージも含めて、はがきサイズの着彩小下絵を5枚作成します。後半初日に前半で描いた写生と草稿と小下絵の持参がない場合は受講できません。

事前課題の詳細は「日本画V-1」事前課題資料（airUシラバス「日本画V-1」事前課題、またはシラバス巻末資料「S（スクーリング科目）編」）で必ず確認するようにしてください。

●1日目～4日目の課題

モデルの固定ポーズから自分が描きたい角度を選び、4日間の写生をします。写生をしながら40号制作への構想を練り、各日のポーズ時間の後は、40号サイズの草稿へと引き伸ばし作業を行います。顔や手足は詳細な写生を別紙にも行います。

授業計画

●自宅学習

事前課題 ※後半スクーリング受講前に行うこと

●スクーリング

<前半>

1日目

1講時

・導入、人物写生と人物制作についての講義

2講時～5講時

- ・各自が自由に移動しながらいろんな角度からモデルを素描する
- ・制作に使うポーズが決まったら、それを中心に写生を行う

2日目

1～4講時

- ・固定ポーズの写生
(同一ポーズでヌードとコスチュームの回があるので、両方を描く)

5講時

- ・草稿への引き伸ばし作業

<後半>

3日目

1～4講時

- ・人物写生（色鉛筆も併用する）

5講時

- ・草稿制作

4日目

1～4講時

- ・人物写生、顔や手足などの部分写生（色鉛筆併用）

5講時

- ・草稿制作
- ・順次個人講評と今後の進め方の指導

●フォローアップ

なし

受講にあたって

●持参物

1日目・2日目

写生用具一式（鉛筆、色鉛筆、消しゴム、練り消しゴム、カルトン（会期中貸出可能）、カッターナイフ、目玉クリップ、フィキサチーフ等）、写生を持ち帰るための入れもの（筒やカルトンケース等）、スリッパ（本学NC棟で開講の場合のみ）
・クロッキー帳、木炭紙サイズ（65×50cm）のケント紙6枚、草稿紙は大学で用意したものを配布します。

3日目・4日目

事前課題（後半初日：引き伸ばした草稿・はがきサイズの小下絵5点）、前半で描いた写生
写生用具一式、写生を持ち帰るための入れもの、スリッパ（本学NC棟で開講の場合のみ）

●諸経費

実習費：12,800円（モデル使用料4日分、クロッキー帳、ケント紙、草稿紙）

- ・スクーリング終了後、指定口座より引き落としいたします。キャンセル・欠席の際もモデル使用料引き落としは行います。
- ・金額は変更になる場合がございます。

注意事項

・事前課題があります。必ず確認し、指定された日程までに取り組んでください。スクーリング後半日程の初日に持参・提出がない場合は単位認定されません。

●学習上の留意点

実際に制作する時にはモデルはいませんから、この期間に可能な限り詳細に写生をしておく必要があります。また、制作では単なる肖像画ではなく、自分の思いや何らかのテーマを人物の形を通して表現することになりますから、写生をしながら自分がどんな表現をしたいかも考えていくようにしましょう。今回の写生ではモデルそのものを詳細に描くことを基本としますが、制作時には髪型やコスチューム、表情などは各自のテーマに合わせて変更してもかまいません。背景に入れる具体的なもの（植物・風景・動物・静物など）は制作のスクーリングまでに実際に写生したものを草稿に加えてくる必要がありますので、それらを念頭に置きながら草稿の構図を考えていきましょう。

●留意事項

この授業で仕上げた写生・草稿・小下絵が「日本画V-2・V-3」の制作の基となります。大切に保管し「日本画V-2・V-3」スクーリング受講時には忘れず持参してください。

また、このスクーリングでの写生をもとに構図を決め、各自で任意に以下のいずれかのサイズのパネルを購入して事前課題を作成してください。

- 1)20号パネル×2枚（20号のF・P・Mいずれかの同型パネル2枚の組み合わせ、あるいはFとPなど、別型との組み合わせ）
- 2)B2パネル×2枚

S	日本画Ⅴ－2（人物） 人物制作1 科目コード： 61010
配当年次	3年次～
単位数	2
履修の前提条件	「日本画演習Ⅱ-1」を合格済みであること。 「日本画Ⅴ-1」を合格済み、あるいは履修中であること。 ※履修中とはスクーリング受講申込をし、受講許可をされていることです。 キャンセルしたり、不合格となると履修中ではなくなります。 ※「日本画Ⅴ-1」の課題が必要です。 ※今年度卒業制作に着手される方が「卒業制作3～6」履修の前提条件を満たすために卒業制作と並行して履修する場合は、東京会場の日程のみ履修が可能です。
開講日程・ 開講地・定員	日本画Ⅴ－2(人物制作1)a 開催日程：2019年5月25日（土）～ 2019年5月26日（日）, 2019年6月15日（土）～ 2019年6月16日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥32,000、定員：25 日本画Ⅴ－2(人物制作1)b 開催日程：2019年11月30日（土）～ 2019年12月1日（日）, 2019年12月14日（土）～ 2019年12月15日（日） 開催地：京都、受講料： ￥26,000、定員：なし
担当者	佐竹龍蔵*、松生歩、真鍋修、行近壯之助、橋本明子、表地久美子

科目概要と到達目標

「日本画Ⅴ-1」および本科目の事前課題で仕上げた人物写生と草稿を基に、人物画の制作をします。骨描きから水干絵具の使用、そして岩絵具での制作に移行していきます。具体的な人物写生を基にしながら、自己の思いを作品に反映させることと、制作手順を自身で組み立てて作業を進められるようになることを目標とします。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
2. 描写力
3. 表現力
4. 準備度
5. 構成力
6. 取組む姿勢
7. 制作意図
8. 完成度

上記の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に授業への取り組みと課題により総合的に評価します。

予習・復習

予習：制作にあたって自分のイメージを広げるために、教材以外にもいろんな人物画を見ておくことが勉強になります。画集、展覧会などで、できるだけ多くの作例に触れ、構図・表現・マチエールなどの

ヒントを集めておきましょう。線を大事にしたシンプルな表現を目指す場合も、近代日本画の人物の描き方を多くの作例で調べておいてください。また、テキスト『基礎から学ぶ日本画』、『日本画の制作を学ぶ』を参考に、自身の制作の手順をシミュレーションしておきましょう。（約25時間）

復習：スクーリングが終わった時点が、制作の折り返し地点になります。自宅で作品を見直し、色や表現方法にもっと可能性が見いだせないか、他の作家などの作例を見て参考にし、後半の制作計画を立てましょう。また、授業で遅れがちな人は制作を相応に進めておきましょう。（約15時間）

テキストと参考文献・URL

テキスト	『基礎から学ぶ日本画』『日本画の制作を学ぶ』
参考文献・URL	airUマイページ>カリキュラム一覧（シラバス）>「日本画V-2」>事前課題 松生歩『白い紙の上に一日本画制作への向かい方とヒント』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学舎、2019年

課題

●事前課題

「日本画V-1」のスクーリングで描いた写生をもとに、人物の髪型・表情・コスチュームなども見直し、背景を加えて草稿を完成させます。また、完成をイメージした詳細な小下絵（A5サイズ程度・着色したものを3枚）を作成します。必要に応じてマチエールの試作も作ってみましょう。また、パネルにアク止めをして麻紙を水張りしておきます。これらは前回のスクーリングで描いた写生とともに、必ずすべて「日本画V-2」スクーリングに持参してください。

事前課題の詳細は「日本画V-2」事前課題資料（airUシラバス「日本画V-2」事前課題、またはシラバス巻末「S（スクーリング科目）編」）で必ず確認するようにしてください。

●1日目～4日目の課題

・草稿・小下絵をグループごとに教員を交えて相互講評を行い、その後制作に取り掛かります。

水干絵具は、全体の下地として有効な色を大きな面積から徐々に細部へと塗り分けて行き、白い下地が透けて見えない程度に色が入れば岩絵具に移行します。岩絵具も同様に大きな面積に共通して入れたい色から選んで塗り、徐々に細部を表現します。早い段階で全体に岩絵具のざらつきがある方が制作を進めやすくなります。

・このスクーリングで制作の半ばまでを目標に描きます。

授業計画

●自宅学習

事前課題

●スクーリング

<前半>

1日目

1～2講時

・導入、草稿・小下絵のグループ講評、トレース

3～5講時

・骨描き、胡粉・水干絵の具を塗り始める

2日目

1～5講時

・水干絵具制作

<後半>

3日目

1～5講時

・岩絵具制作

4日目

1～5講時

・岩絵具制作、寸評

●フォローアップ

以下の日程で「フォローアップ」を開催します。学習の補助として、必要な方は参加してください。

日本画V-2(人物制作1)a：2019年6月14日（金）13:20～17:40

日本画V-2(人物制作1)b：2019年12月13日（金）13:20～17:40

受講にあたって

●持参物

事前課題（加筆して完成させた草稿・人物以外で画面に入れたモチーフの写生・A5サイズ小下絵3枚）

「日本画V-1」で制作した写生、ドーサ引きの麻紙を水張りしたパネル、パネルバイス、制作に必要な画材・材料一式、筆洗、スリッパ（本学NC棟で開講の場合のみ）、梱包材料（段ボール箱等。スクーリング終了後に道具・手荷物を発送する必要がある場合のみ）

・梱包材料のうち、布ガムテープは大学で用意します。

・下記の画材を貸出しています。（当日、各教室のアシスタントに申し出てください）

乳鉢、乳棒、膠なべ（行平）、硯、梅皿

事前課題作成に際し、以下のいずれかのサイズのパネルを各自で購入して下さい。

1) 20号パネル×2枚（20号のF・P・Mいずれかの同型パネル2枚の組み合わせ、あるいはFとPなど、別型との組み合わせ）

2) B2パネル×2枚

上記以外のパネルでは受講できません。また、制作用の麻紙も各自で購入してパネルに水張りしておきます。

麻紙は「高知麻紙・厚口」または「雲肌麻紙」を使い、それぞれドーサ引きの紙を購入するか、自分でドーサを引いておきましょう。

水張りの前に、パネルのアクを雑巾で良く拭き取り、念のためジェッソなどを塗ってアク止めをしておくことをお勧めします。

●諸経費

諸経費の引き落としはありません。

●その他

パネル送付について

スクーリング初日にパネルを持参することが困難な方は、事前にスクーリング会場へパネルを送ることができます。その際、以下の事項を厳守してください。

・宅配便（ゆうパック不可）で送付されたパネルのみ受け付けます。

・梱包して平箱に入れ、箱の側面に学籍番号・氏名・住所・連絡先・「日本画V-2（人物制作1）ス

クーリング用」と明記してください。

- ・伝票の宛先は「通信日本画研究室」宛とし、必ず「元払い」で送付してください。
- ・配達指定日は以下を確認し、厳守してください。指定日以外に送付されたパネルは受け付けできません。

<配達指定日、パネル送付先>

・東京会場

前半分：2019年5月21日（火）～5月22日（水） 指定期間必着

後半分：2019年6月11日（火）～6月12日（水） 指定期間必着

〒107-0061 東京都港区北青山1-7-15

京都造形芸術大学 東京外苑キャンパス 通信日本画研究室宛

電話：03-5412-6105

・京都会場

前半分：2019年11月26日（火）～11月27日（水） 指定期間必着

後半分：2019年12月10日（火）～12月11日（水） 指定期間必着

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

京都造形芸術大学 通信日本画研究室宛

電話：075-791-9141

注意事項

・事前課題があります。必ず受講までに確認し、取り組んでください。初日に持参・提出のない場合は認定されません。

●学習上の留意点

事前課題が不十分な場合、このスクーリングでの作業が進められません。

必ず課題を完成させ、写生やパネルなどとともに忘れ物の無いように持参してください。

前半と後半で目安として「水干絵具制作」「岩絵具制作」と記述していますが、実際の作業の中では、前半も後半も両方の絵の具が必要な場合が多いです。どちらも持参するようにしてください。

●留意事項

スクーリングの前半が終わった後、作品はいったん持ち帰るか、自宅へ発送します。後半スクーリングに向けて、各自必要な分だけ自宅で描き進めてください。作品発送のための梱包材料（パネル作品用平箱、エアキャップ、養生シートなど）は、今回大学に送った時のものを再利用しますが、足りないものは各自で用意してください。

【2017年度以前に日本画V-1を受講された方】

日本画V-2、V-3の作品は、送付の便宜上40号を2分割したパネルで制作します。

「受講にあたって」の項をよく読んで準備しておいてください。作品の大きさが変わることによって草稿の縮小が必要になりますが、構図に迷われる場合は質問票を通じてご相談ください。

S	日本画Ⅴ－3（人物） 人物制作2 科目コード： 61011
配当年次	3年次～
単位数	2
履修の前提条件	「日本画演習Ⅱ-1」を合格済みであること。 「日本画Ⅴ-2」を合格済み、あるいは履修中であること。 ※履修中とはスクーリング受講申込をし、受講許可をされていることです。 キャンセルしたり、不合格となると履修中ではなくなります。 ※「日本画Ⅴ-1」「日本画Ⅴ-2」の課題が必要です。 ※今年度卒業制作に着手される方が「卒業制作3～6」の履修の前提条件を満たすために卒業制作と並行して履修する場合は、東京会場の日程のみ履修が可能です。
開講日程・開講地・定員	日本画Ⅴ－3(人物制作2)a 開催日程：2019年7月13日（土）～ 2019年7月14日（日）, 2019年8月3日（土）～ 2019年8月4日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥32,000、定員：27 日本画Ⅴ－3(人物制作2)b 開催日程：2020年1月18日（土）～ 2020年1月19日（日）, 2020年2月22日（土）～ 2020年2月23日（日） 開催地：京都、受講料： ¥26,000、定員：なし
担当者	佐竹龍蔵*、松生歩、真鍋修、行近壯之助、橋本明子、表地久美子

科目概要と到達目標

「日本画Ⅴ-2」に引き続き、人物画の制作をし、完成させます。
人体のボリュームや肌の質感に加え、自己の表現したかった思いや世界観を描ききることを目標とします。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
2. 描写力
3. 表現力
4. 準備度
5. 取組む姿勢
6. 完成度

上記の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に授業への取り組みと課題により総合的に評価します。

予習・復習

予習

制作の後半のために、人体の肌の仕上げ方などを、テキストで確認しておきましょう。マチエールも含め、テストピースなどで試し描きをしてみるのも勉強になります。（約10時間）

復習

スクーリング中は、夢中で取り組むうちに仕上がったという方が多いと思います。自分が描いた方法の詳細を、成功も失敗も含め、きちんとノートに記録して振り返っておきましょう。卒業制作で必ず役に立ちます。（約5時間）

テキストと参考文献・URL

テキスト	『基礎から学ぶ日本画』『日本画の制作を学ぶ』
参考文献・URL	松生歩『白い紙の上に一日本画制作への向かい方とヒント』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学

課題

●事前課題

スクーリングまでに必要と思われる分の制作を進めておきましょう。

人物の肌の表現などは理想に近づけるまでにはかなりの紆余曲折がありますし、単に人体を描くだけではなく自身の絵画作品として表現するためには、時間がかかります。

スクーリングで完成できるよう、時間を逆算して、相応に加筆しておいてください。

●1日目～4日目の課題

・全体の描き込みを深めていきます。特に人物の肌には注意を払い、概念に終始せずにできるだけ多くの色を使って生命感のある表現に近づけましょう。

・想いを表現するために、様々な表現を試してみても構いません。ただし、経験のないマチエールなどを使う場合は本紙に描く前にテストピースなどで実験しておきましょう。

・スクーリング内で作品を完成させ、グループ合評で作品のコンセプトを語り、制作を振り返ります。

授業計画

●自宅学習

事前学習

●スクーリング

<前半>

1日目

1～5講時

・人物画の岩絵具制作

2日目

1～5講時

・制作

<後半>

3日目

1～5講時

・制作

4日目

1～3講時

- ・制作
- 4～5講時
- ・グループ合評、片付け

●フォローアップ

以下の日程で「フォローアップ」を開催します。学習の補助として、必要な方は参加してください。

日本画V-3(人物制作2)a：2019年8月2日（金）13:20～17:40

日本画V-3(人物制作2)b：2020年2月21日（金）13:20～17:40

受講にあたって

●持参物

事前課題（「日本画V-2」の制作から必要分を描き進めた作品）

写生、小下絵、草稿、制作に必要な画材・材料一式、筆洗、スリッパ（本学NC棟で開講の場合のみ）、
梱包材料（段ボール箱等。スクーリング終了後に道具・手荷物を発送する必要がある場合のみ）

- ・梱包材料のうち、布ガムテープは大学で用意します。
- ・下記の画材を貸出しています。（当日、各教室のアシスタントに申し出てください。）
乳鉢、乳棒、膠なべ（行平）、硯、梅皿

●諸経費

諸経費の引き落としはありません。

●その他

パネル送付について

スクーリング初日にパネルを持参することが困難な方は、事前にスクーリング会場へパネルを送ることができます。その際、以下の事項を厳守してください。

- ・宅配便（ゆうパック不可）で送付されたパネルのみ受け付けます。
- ・梱包して平箱に入れ、箱の側面に学籍番号・氏名・住所・連絡先・「日本画V-3（人物）スクーリング用」と明記してください。
- ・伝票の宛先は「通信日本画研究室」宛てとし、必ず「元払い」で送付してください。
- ・配達指定日は以下を確認し、厳守してください。指定日以外に送付されたパネルは受け付けできません。

<配達指定日、パネル送付先>

- ・東京会場

前半分：2019年7月9日（火）～7月10日（水）指定期間必着

後半分：2019年7月30日（火）～7月31日（水）指定期間必着

〒107-0061 東京都港区北青山1-7-15

京都造形芸術大学 東京外苑キャンパス 通信日本画研究室宛

電話：03-5412-6105

- ・京都会場

前半分：2020年1月14日（火）～1月15日（水）指定期間必着

後半分：2020年2月18日（火）～2月19日（水）指定期間必着

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

京都造形芸術大学 通信日本画研究室宛

電話：075-791-9141

注意事項

●学習上の留意点

事前課題が不十分な場合、このスクーリングで作品が仕上がりにません。最終日に完成した状態で合評が受けられるよう、逆算して制作を進めておきましょう。

制作の後半に入りますが、草稿や写生は制作指導上必要です。必ず持参するようにしてください。

●留意事項

スクーリングの前半が終わった後、作品はいったん自宅へ発送します。後半スクーリングに向けて、各自必要な分だけ自宅で描き進めてください。作品発送のための梱包材料（パネル作品用平箱、エアキャップ、養生シートなど）は、今回大学に送った時のものを再利用しますが、足りないものは各自で用意してください。

S	日本画Ⅴ－4（風景） 風景写生 科目コード： 61012
配当年次	3年次～
単位数	2
履修の前提条件	「日本画演習Ⅱ-1」を合格済みであること。 ※本科目は「日本画Ⅰ-1」～「日本画Ⅱ-1」履修後を想定し内容を設定しています。写生の技法を修得しておくことが必要ですので、可能な限り、これらを先に受講してください。 ※「日本画Ⅴ-1・2・3」「日本画Ⅴ-4・5・6」のいずれかを選択必修。 ※選択必修を終えた上で、希望者のみもう一方を履修することが可能です。
開講日程・ 開講地・定員	日本画Ⅴ－4(風景写生) 開催日程：2019年5月18日（土）～ 2019年5月19日（日）、2019年6月1日（土）～ 2019年6月2日（日） 開催地：京都、受講料： ¥26,000、定員：45
担当者	山田真澄*、八田哲、吉川弘、久野隆史、池庄司淳、米田実

科目概要と到達目標

叡山電鉄の各駅周辺の風景を選び、屋外で風景写生をします。これまでのように与えられたモチーフを描くのではなく、自ら描くテーマを決めて制作へと繋げていくための写生をすることが目標です。駅、町並み、山々の風景など対象となるものは自由です。様々な環境の中から心を惹かれた場所を画面いっぱいに描き込みましょう。自然の中の季節や時間、建物、行き交う人々の様子など風景には様々な要素があります。それらの要素との対話を通して、自己の絵画表現を見つけてください。

また、描画材についても色画用紙やクラフト紙、ケント紙など自由な紙に、鉛筆、色鉛筆、パステル、水彩、顔彩、木炭、墨などを自由に使って描き、より表現の幅を広げることを目指します。

※この授業で行った写生が「日本画Ⅴ-5・6」の制作の基となります。大切に保管し、スクーリングの際には忘れずに持参してください。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
2. 描写力
3. 表現力
4. 理解度
5. 構成力
6. 取組む姿勢
7. 制作意図
8. 完成度

上記の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に授業への取り組みと課題により総合的に評価します。

予習・復習

予習

展覧会や画集などを見て、自分の好きな作風や参考にしたい作品を探しておきましょう。

風景写生に向けて、実際に手を動かして大きな全体像をつかむ練習をしておきましょう。（約15時間）

例：自宅の窓から見た景色を写生する。

近所の風景を写生する。

復習

スクーリング終了後、今回の写生時間内で描き足りなかった場合は、できれば写生現場に行き、足りない写生を補ってください。遠方の場合、自宅の近くで植物や似た樹木などを写生しても良いでしょう。出来上がった写生を制作のサイズに引き伸ばし、草稿（大下図）を次回の「日本画V-5」スクーリングまでに制作しておきます。（約15時間）

テキストと参考文献・URL

テキスト	『基礎から学ぶ日本画』『日本画の制作を学ぶ』 配布資料（担当者作成のプリントを授業中に配布します。）
参考文献・URL	airUマイページ>カリキュラム一覧（シラバス）>「日本画V-4」>事前課題 松生歩『白い紙の上に一日本画制作への向かい方とヒント』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学舎、2019年

課題

●事前課題

airUシラバス「日本画V-4」事前課題、またはシラバス巻末資料「TW（テキスト科目）編」の「日本画演習Ⅱ-1」および「S（スクーリング科目）編」の「日本画V-4」を参考に、事前に叡山鉄道の駅周辺（駅構内は不可、徒歩10分以内程度）を散策し、下調べをして写生の候補地を決めておくこと。3号程度のスケッチブックに簡単なエスキースを2～3枚とり、スクーリング初日に持参してください。

●1日目～4日目

叡山鉄道の各駅から徒歩10分程度の距離内の場所を10号のスケッチブック2枚～4枚程度の大きさに写生をする。

※前半と後半の間に各自で写生を加筆して完成を目指しましょう。最終日4日目は「日本画V-5」の事前課題の為の説明がありますので、写生は午前中のみとなります。前半と後半の間に土日を含んでるので利用するか、前半日程後、または後半日程の前に写生をするなどして、可能な限り時間を作り現場での写生に取り組んでください。自宅での写真のみによる加筆は原則不可とします。

授業計画

●自宅学習

事前課題

●スクーリング

<前半>

1日目

1講時

- ・学校集合出席。諸注意事項。紙、画材、写生の始め方などのレクチャー。
- ・各自写生場所の確認。

2～4講時

- ・各自写生場所にて写生。

5講時

- ・ 17:00～17:40出町柳駅集合。教員より写生を寸評して各自解散。

2日目

1～4講時

- ・ 出町柳駅にて出欠確認。現地で写生。

5講時

- ・ 5講時(16:20～)学校集合後、教員による寸評。

<後半>

※前半寸評の後、各自写生を加筆しておくこと。

3日目

1講時

- ・ 学校集合。写生確認。各自捻紙作成後、現地写生

2～4講時

- ・ 現地写生

5講時

- ・ 17:00～17:40出町柳駅集合。教員により写生を寸評して各自解散。

4日目

1～2講時

- ・ 出町柳駅にて出席確認。

3～5講時

- ・ 学校集合。構図決め、草稿、サイズ決定。
- ・ 本画制作へ移行などのレクチャー。捻紙の完成。
- ・ 諸注意

●フォローアップ

以下の日程で「フォローアップ」を開催します。学習の補助として、必要な方は参加してください。

日本画V-4(風景写生)：2019年5月31日（金）13:20～17:40

その他、学習相談会もご利用ください。

受講にあたって

●持参物

事前課題（叡電駅周辺の写生場所のエスキース2～3枚）

写生道具(スケッチブック8～10号程度またはカルトン、B3～B2サイズ程度の紙（ケント紙、画用紙、クラフト紙、和紙など）6～8枚、エスキース用クロッキー帳（SM～3号程度）、鉛筆（2H～4B）、色鉛筆、水彩絵具、顔彩、パステル、木炭、墨など、消しゴム、練り消しゴム、クリップ、紐、セロテープ、製本テープ、フィキサチーフ）、ビニール袋（透明なもの70L）

敷物用ビニールシートや折りたたみ椅子、野外用イーゼル（必要であれば）、双眼鏡（簡易的なもので良い。あると便利）、雨具、体温調節のための上着など、各自必要な物

【写生用具について】

上記を参考に、各自写生に必要な紙、道具類および画材を持参してください。

彩色には色鉛筆、パステル、顔彩、水彩が使いやすいでしょう。ソフトパステル（水性）は広い面積を素早く塗ったり、色鉛筆、水彩の修正などにも効果的です。

屋外での写生は天候に左右されます。描きたい場所が始終陽の当たる場所であったり、逆に日陰であったり、また急に雨が降ってくるかもしれません。帽子、サングラス、雨具、虫除けスプレー、日傘、日

焼け止めクリームなどもあるとよいでしょう。様々な状況に対応する準備を心がけてください。

●諸経費

実習費：1,300円（薄美濃紙、絵具）

- ・スクーリング終了後、指定講座より引き落しいたします。
- ・金額は変更になる場合はございます。
- ・その他、交通費は各自実費です。

注意事項

・事前課題があります。必ず受講までに確認し取り組んでください。初日に持参・提出のない場合は単位認定されません。

・この授業で仕上げた写生が「日本画V-5、V-6」の制作の基となります。大切に保管し「日本画V-5、V-6」スクーリング受講時には忘れず持参してください。

このスクーリングでの写生をもとに構図を決め、各自で任意に以下のいずれかのサイズのパネルを購入して事前課題を作成してください。

- 1) 20号パネル×2枚（20号のF・P・Mいずれかの同型パネル2枚の組み合わせ）
- 2) B2パネル×2枚

S	日本画Ⅴ－5（風景） 風景制作1	科目コード： 61013
配当年次	3年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	「日本画演習Ⅱ-1」を合格済みであること。 「日本画Ⅴ-4」を合格済み、あるいは履修中であること。 ※履修中とはスクーリング受講申込をし、受講許可をされていることです。 キャンセルしたり、不合格になると履修中ではなくなります。 ※「日本画Ⅴ-4」の課題が必要です。	
開講日程・ 開講地・定員	日本画Ⅴ－5(風景制作1) 開催日程：2019年6月29日（土）～ 2019年6月30日（日）、2019年7月13日（土）～ 2019年7月14日（日） 開催地：京都、受講料： ￥26,000、定員：45	
担当者	山田真澄*、八田哲、吉川弘、池庄司淳、久野隆史、米田実	

科目概要と到達目標

「日本画Ⅴ-4」の風景写生を基に40号サイズ風景制作をします。
これまでよりも大きな画面に挑戦します。制作へ進め方と計画性を学び、「何を描きたいのか」「どのように表現したいのか」という目的意識を明確にして、自分の作品作りを目標とします。

最初の段階から大きな画面に描いていくことを体験し、画面に対する適当な絵の具の量や刷毛・筆大きさ選びなどを学びましょう。
また、表現方法の研究としてマチエールや箔表現などのレクチャーを参考にして自分の作品にも積極的に取り入れ、技法の経験を積みましょう。

より多様な日本画表現を学び、卒業制作へ向けて自己の絵画表現を考える足がかりになることを目指しましょう。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
2. 描写力
3. 表現力
4. 理解度
5. 構想力
6. 取組む姿勢
7. 制作意図
8. 完成度

上記の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に授業への取り組みと課題により総合的に評価します。

予習・復習

予習

- ・本画制作に向けての小下絵作成

写生から本画にしていく上で、どのような色（空、木、葉の色など）、構図にするのかを小さな下絵（はがきサイズくらい）で練り、2～4パターンつくってみましょう。

- ・展覧会や画集などを見て、自分の好きな作品や作風、表現方法を探しておきましょう。（20時間）

復習

スクーリング終了後、「日本画V-6（風景制作2）」スクーリングまでに今回制作した作品の表現研究をしましょう。

例：下地全体の大まかな着色（箔、マチエールなども含む）、細部の描きこみなど（20時間）

テキストと参考文献・URL

テキスト	『基礎から学ぶ日本画』、『日本画の制作を学ぶ』 配布資料（担当者作成のプリントを授業中に配布します）
参考文献・URL	airUマイページ>カリキュラム一覧（シラバス）>「日本画V-1」>事前課題 松生歩『白い紙の上に日本画制作への向かい方とヒント』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学舎、2019年

課題

●事前課題

- ・草稿作成

実際に描く40号サイズに写生を拡大（写生の方が大きい場合は縮小）し、草稿用紙、トレーシングペーパーに写します。

- ・本画制作（水張り～骨描き、胡粉下地まで）

40号サイズのパネルに麻紙を貼り、草稿を転写、骨描きを終えて、下地の胡粉を塗るまでをしてスクーリングに持ってきてください。

airUシラバス「日本画V-5」事前課題参照

●1日目～4日目

40号サイズの風景制作をします。

この回では描き始めから5割くらい進んだ途中段階まで描くことが目標です。

授業計画

●自宅学習

事前課題

●スクーリング

<前半>

1日目

1講時 導入

- ・下地塗り、水干岩絵の具による制作レクチャー（マチエールなど）

2～5講時

- ・各自制作

2日目

1講時

・箔のレクチャー

2～5講時

・各自制作

<後半>

3日目

1～5講時 制作

4日目

1～3講時 制作

4～5講時 寸評 後片付け

●フォローアップ

以下の日程で「フォローアップ」を開催します。学習の補助として、必要な方は参加してください。

日本画V-5(風景制作1)：2019年7月12日（金）13:20～17:40

その他、希望者は学習相談会をご利用ください。

受講にあたって

●持参物

事前課題：風景制作作品（「日本画V-4」で制作した風景写生から草稿をして、40号のパネルに転写、骨描き、胡粉下地をしたもの）

「日本画V-4」で制作した風景写生・草稿・小下絵、制作に必要な画材・材料一式（なるべく大きな刷毛や皿を用意）、筆洗、その他木炭、パステル等

スリッパ（本学NC棟で開講の場合のみ）、梱包材料（段ボール箱等。スクーリング終了後に道具・手荷物を発送する必要がある場合のみ）

- ・初日から水干・岩絵具を使いますので必ず持参してください。
- ・梱包材料のうち、布ガムテープは大学で用意します。
- ・下記の画材を貸出しています。（当日、各教室のアシスタントに申し出てください。）
乳鉢、乳棒、膠なべ（行平）、硯、梅皿

事前課題作成に際し、以下のいずれかのサイズのパネルを各自で購入して下さい。

1) 20号パネル×2枚（20号のF・P・Mいずれかの同型パネル2枚の組み合わせ）

2) B2パネル×2枚

上記以外のパネルでは受講できません。また、制作用の麻紙も各自で購入してパネルに水張りしておきます。

麻紙は「高知麻紙・厚口」または「雲肌麻紙」を使い、それぞれドーサ引きの紙を購入するか、自分でドーサを引いておきましょう。

水張りの前に、パネルのアクを雑巾で良く拭き取り、念のためジェッソなどを塗ってアク止めをしておくことをお勧めします。

●諸経費

諸経費の引き落としはありません。

●その他

パネル送付について

スクーリング初日にパネルを持参することが困難な方は、事前にスクーリング会場へパネルを送ること

ができます。その際、以下の事項を厳守してください。

- ・宅配便（ゆうパック不可）で送付されたパネルのみ受け付けます。
- ・梱包して平箱に入れ、箱の側面に学籍番号・氏名・住所・連絡先・「日本画V-5（風景）スクーリング用」と明記してください。
- ・伝票の宛先は「通信日本画研究室」宛とし、必ず「元払い」で送付してください。
- ・配達指定日は以下を確認し、厳守してください。指定日以外に送付されたパネルは受け付けできません。

<配達指定日、パネル送付先>

- ・京都会場

前半分：2019年6月25日（火）～6月26日（水）指定期間必着

後半分：2019年7月9日（火）～7月10日（水）指定期間必着

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

京都造形芸術大学 通信日本画研究室宛

電話：075-791-9141

注意事項

・事前課題があります。必ず受講までに確認し取り組んでください。初日に持参のない場合は単位認定されません。

●留意事項

スクーリングの前半が終わった後、作品はいったん持ち帰るか、自宅へ発送します。後半スクーリングに向けて、各自必要な分だけ自宅で描き進めてください。作品発送のための梱包材料（パネル作品用平箱、エアキャップ、養生シートなど）は、今回大学に送った時のものを再利用しますが、足りないものは各自で用意してください。

【2017年度以前に日本画V-4を受講された方】

日本画V-5、V-6の作品は、送付の便宜上40号を2分割したパネルで制作します。

「受講にあたって」の項をよく読んで準備しておいてください。作品の大きさが変わることによって草稿の縮小が必要になりますが、構図に迷われる場合は質問票を通じてご相談ください。

S	日本画Ⅴ－6（風景） 風景制作2	科目コード： 61014
配当年次	3年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	「日本画演習Ⅱ-1」を合格済みであること。 「日本画Ⅴ-5」を合格済み、あるいは履修中であること。 ※履修中とはスクーリング受講申込をし、受講許可をされていることです。 キャンセルしたり、不合格となると履修中ではなくなります。 ※「日本画Ⅴ-4」「日本画Ⅴ-5」の課題が必要です。	
開講日程・ 開講地・定員	日本画Ⅴ－6(風景制作2) 開催日程：2019年7月27日（土）～ 2019年7月28日（日）, 2019年8月31日（土）～ 2019年9月1日（日） 開催地：京都、受講料： ￥26,000、定員：45	
担当者	山田真澄*、八田哲、吉川弘、池庄司淳、久野隆史、米田実	

科目概要と到達目標

「日本画Ⅴ-5」に引き続き風景制作をし、完成させます。
風景の中から自らテーマを決め、写生→草稿→制作を完成させ、自身の今後の日本画制作の足がかりを見つけることを目標とします。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
2. 描写力
3. 表現力
4. 理解度
5. 構想力
6. 取組む姿勢
7. 制作意図
8. 完成度

上記の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に授業への取り組みと課題により総合的に評価します。

予習・復習

予習

今回のスクーリングで作品が完成するように準備をしておいてください。
箔を使う人は貼っておく、または、スクーリング開始後すぐに貼れる段階まで準備しておきましょう。
（約40時間）

復習

スクーリング終了後は今回の課題で得た経験や技法を振り返り、次の作品の構想につなげるとともに自宅でも常に制作できるリズムをつくっていきましょう。（約10時間）

テキストと参考文献・URL

テキスト	『基礎から学ぶ日本画』『日本画の制作を学ぶ』 配布資料（担当者作成のプリントを授業中に配布します。）
参考文献・URL	airUマイページ>カリキュラム一覧（シラバス）>「日本画V-6」>事前課題 松生歩『白い紙の上に一日本画制作への向かい方とヒント』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学舎、2019年

課題

●事前課題

「日本画V-5」で制作していたものを6割～7割を目処に制作しておくこと。

●1日目～4日目の課題

「日本画V-5」で進めてきた風景制作を完成させます。

今まで描いてきた絵をどのようにまとめていくか、最初のイメージを今一度思い起こしながら仕上げていきます。

授業計画

●自宅学習

1～5講時相当 事前学習

●スクーリング

<前半>

1日目

1講時 導入

・制作中の作品をチェック後各自制作

2日目

1～5講時

・各自制作

<後半>

3日目

1～5講時

・制作

4日目

1～2講時

・制作

3～5講時

・合評

●フォローアップ

以下の日程で「フォローアップ」を開催します。学習の補助として、必要な方は参加してください。

日本画V-6(風景制作2)：2019年8月30日（金）13:20～17:40

その他、希望者は学習相談会をご利用ください。

受講にあたって

●持参物

事前課題（「日本画V-4」「日本画V-5」で制作した課題・写生のすべて）

制作に必要な画材・材料一式、筆洗、スリッパ（本学NC棟で開講の場合のみ）、梱包材料（段ボール箱等）。スクーリング終了後に道具・手荷物を発送する必要がある場合のみ）

- ・梱包材料のうち、布ガムテープは大学で用意します。
- ・下記の画材を貸出しています。（当日、各教室のアシスタントに申し出てください。）
乳鉢、乳棒、膠なべ（行平）、硯、梅皿

●諸経費

諸経費の引き落としはありません。

●その他

パネル送付について

スクーリング初日にパネルを持参することが困難な方は、事前にスクーリング会場へパネルを送ることができます。その際、以下の事項を厳守してください。

- ・宅配便（ゆうパック不可）で送付されたパネルのみ受け付けます。
- ・梱包して平箱に入れ、箱の側面に学籍番号・氏名・住所・連絡先・「日本画V-6（風景）スクーリング用」と明記してください。
- ・伝票の宛先は「通信日本画研究室」宛とし、必ず「元払い」で送付してください。
- ・配達指定日は厳守してください。以下の指定日以外に送付されたパネルは受け付けできません。

<配達指定日、パネル送付先>

- ・京都会場

前半分：2019年7月23日（火）～7月24日（水）指定期間必着

後半分：2019年8月27日（火）～8月28日（水）指定期間必着

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

京都造形芸術大学 通信日本画研究室宛

電話：075-791-9141

注意事項

●学習上の留意点

事前課題が不十分な場合、このスクーリングで作品が仕上がりにません。最終日に完成した状態で合評が受けられるよう、逆算して制作を進めておきましょう。

制作の後半に入りますが、草稿や写生は制作指導上必要です。必ず持参するようにしてください。

●留意事項

スクーリングの前半が終わった後、作品はいったん自宅へ発送します。後半スクーリングに向けて、各自必要な分だけ自宅で描き進めてください。作品発送のための梱包材料（パネル作品用平箱、エアキャップ、養生シートなど）は、今回大学に送った時のものを再利用しますが、足りないものは各自で用意してください。

S	日本画Ⅰ－3 制作の基本 科目コード： 61017
配当年次	1年次～
単位数	1
履修の前提条件	2018年度まで開講していた「日本画Ⅱ-2」の単位を履修済みの場合、履修不可
開講日程・ 開講地・定員	日本画Ⅰ-3(制作の基本)a 開催日程：2019年6月8日（土）～ 2019年6月9日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員：なし 日本画Ⅰ-3(制作の基本)b 開催日程：2019年6月22日（土）～ 2019年6月23日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥16,000、定員：45 日本画Ⅰ-3(制作の基本)c 開催日程：2019年7月13日（土）～ 2019年7月14日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員：なし
担当者	山田真澄*、田中希和子、木下千春、藤井聡子、鷹濱春奈、劉煥杲

科目概要と到達目標

日本画を描くにあたり基礎的な事を学びます。紙のにじみ止め(ドーサ引き)、パネルへの貼りこみ、膠の溶き方、水干、岩絵の具の溶き方などを習得することを目標とします。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
2. 注意力
3. 観察力
4. 描写力
5. 理解度
6. 取り組む姿勢
7. 完成度

上記の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に授業への取り組みと課題により総合的に評価します。

予習・復習

予習

画材の購入をしておきましょう。「画材について」（airUシラバス「日本画Ⅰ-3」事前課題、またはシラバス巻末資料「画材編」）をよく読んで、種類や用途を理解しておきましょう。（20時間）

復習

持ち帰った道具や作品は自宅ですぐに開封して確認をしましょう。筆や皿に洗い残しがないか点検し、濡れている筆や刷毛は良く乾かすなど道具の手入れを習慣にしましょう。また、作品も梱包をなるべく早く解いて、十分に乾かし、必要とあれば合評で言われたことを参考に加筆をして完成度を高めましょう。（5時間）

テキストと参考文献・URL

テキスト	配布資料（担当者作成のプリントを授業中に配布します）
参考文献・URL	airUマイページ>カリキュラム一覧（シラバス）>「日本画Ⅰ-3」>事前課題 松生歩『白い紙の上に日本画制作への向かい方とヒント』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学舎、2019年

課題

●事前課題 ※事前課題に取り掛かる前に必ず予習をしてください。

F10号のスケッチブックにF4号の大きさの枠を書き、その中にテッポウユリの花の写生をしてスクーリング初日に持参して下さい。

「日本画Ⅰ-3」事前課題資料（airUシラバス「日本画Ⅰ-3」事前課題、またはシラバス巻末資料「S（スクーリング科目）編」）を参照。

※初日に写生の持参がない場合は受講できません。写真や他の人が描いた写生を用いるのは不可です。必ず自分で描いた写生を持参して下さい。

事前課題補足事項（5月29日記載追加）

日本画Ⅰ-3の事前課題のモチーフとしててっぽうユリを選んだ理由は、つぎの通りです。

①4号のサイズにおさまりやすい。

②日本画Ⅰ-3のスクーリングで習う白い絵の具の「胡粉」を使えるように白い花である。

原則としてテッポウユリを4号のサイズに描いてきて欲しいのですが、お近くでテッポウユリがどうしても手に入らない場合のみ、「4号におさまる白い花」であれば他の種類の花をモチーフとしてもかまいません。また他のユリの種類でも良いのですが、カサブランカのように4号におさまらないほど大きなものや、白い色ではないものでしたら条件に合いませんので、ユリ以外の種類の白い色としてもかまいません。

例えば、バラやトルコキキョウなどの花なら手に入りやすいと思います。一方カスミソウのようにあまり細かい花もこの課題には向きませんので1輪から2〜3輪程度が適度な大きさのものを選んで事前課題に取り組んでください。

●1日目・2日目の課題

- ・6号用の麻紙にドーサを引き、乾いたらパネルに水張りをします。
- ・日本画の絵の具を使ってF4号サイズの百合の花を描いていきます。

授業計画

●自宅学習

事前課題

●スクーリング

1日目

1講時 導入

- ・ 膠、ドーサの説明、ドーサ引き(F6号)→乾かす
- ・ パネルの下準備(雑巾がけ、捨て糊)

2講時 水張り(F4号)、下絵のトレース、骨書き

3講時 絵の具の説明、胡粉の溶き方、下塗り

4講時 水干絵具の溶き方、下地の塗り方、岩絵の具の溶き方、塗り方

5講時 ユリの花の彩色制作

2日目

1講時 F6号のパネルの水張り(「日本画Ⅱ-1」に持参する)、ユリの花の彩色制作

2講時 ユリの花の彩色制作

3講時 //

4講時 合評

5講時 合評、片づけ

受講にあたって

●持参物

事前課題(F4号サイズ内に描いたテッポウユリの写生)

画材一式

「持参物(画材)」(airUシラバス「日本画Ⅰ-3」事前課題、またはシラバス巻末資料「S(スクーリング科目)編」参照)

10号程度のカルトンバック(スケッチブック、作品持ち帰り用)

梱包材料(段ボール箱等、スクーリング終了後に道具・手荷物を発送する必要がある場合のみ)

【膠の種類について】

固形の膠には各メーカー色々な種類があり、棒状のものと粒状のものがあります。購入しやすいものでかまいませんが、スクーリングにはどこのメーカーのものかわかる状態にして持参してください。

●諸経費

実習費：2,500円(パネルF4号・F6号/雲肌麻紙4号用ドーサ引き/6号用生紙)

- ・スクーリング終了後、指定口座から引き落としいたします。
- ・金額は変更になる場合があります。

注意事項

事前課題があります。必ず受講までに確認し、取り組んでください。初日に持参・提出のない場合は単位認定されません。

S	日本画Ⅱ－3 模写制作 科目コード： 61018
配当年次	1年次～
単位数	1
履修の前提条件	2018年度まで開講していた「日本画Ⅱ-2」の単位を履修済みの場合、履修不可
開講日程・ 開講地・定員	日本画Ⅱ－3(模写制作)a 開催日程：2019年8月17日（土）～ 2019年8月18日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員：なし 日本画Ⅱ－3(模写制作)b 開催日程：2019年9月7日（土）～ 2019年9月8日（日） 開催地：京都、受講料： ￥13,000、定員：なし 日本画Ⅱ－3(模写制作)c 開催日程：2019年9月28日（土）～ 2019年9月29日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥16,000、定員：35
担当者	山田真澄*、田中希和子、木下千春、藤井聡子、鷹濱春奈、劉煥杲

科目概要と到達目標

古典絵画の中から、一場面を模写します。

古来、日本では墨で輪郭線を描き、赤や青の極彩色の絵の具を彩色し絵を楽しんできました。本科目では、代表的な作品の中から絵巻物の一場面を選んで模写します。当時の技術や使われていたものと同種もしくはそれに近い天然の岩絵の具や古典的な画材を中心に使用し、今日の日本画に繋がる彩色方法で制作します。当時の制作を追体験することで、輪郭線の勢いや美しさはもちろんのこと、画面構成や卓越した描写力を感じとり古典絵画をより深く理解することを目標とします。

使用模写手本／『百鬼夜行絵巻』（真珠庵本）

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
2. 技術力
3. 理解度
4. 取組む姿勢
5. 完成度

上記の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に授業への取り組みと課題により総合的に評価します。

予習・復習

予習

「百鬼夜行絵巻」について調べておきましょう。史実や歴史的背景なども掘り下げておくとさらに理解が深まります。

美術館・博物館や寺院等で関連する作品の展示などがあれば観覧しておきましょう。（15時間）

復習

本科目で取り上げたものと同時代の作品や異なる時代の作品を比較し、理解を広げましょう。また、画集や図録などから興味のある作品についても同様に模写を行い、描写力・表現力を身につけましょう。
(10時間)

テキストと参考文献・URL

テキスト	配布資料（当日、科目担当者作成のプリントを配布します）
参考文献・URL	なし

課題

●事前課題

「百鬼夜行絵巻」（真珠庵本）について書かれている本などを読んでおく

●1日目・2日目の課題

古い作品のお手本の上に薄い和紙を乗せて線描をよく観察しながら描き写す「上げ写し」の技法で模写を行います。

模写を通して筆の運び方や線の抑揚のつけ方を追体験し、当時の表現力を学びとっていきましょう。
上げ写しを終えたものに裏から薄い紙を貼り裏打をして、線描で写したものに彩色を施します。古い色の合わせ方や当時使われていた色料の種類や使い方を学びます。

授業計画

●自宅学習

事前課題

●スクーリング

1日目

1講時 導入、手本選択 手順説明

2～4講時 模写制作（上げ写し）

5講時 作品裏打

2日目

1講時 彩色・色あわせの説明

2～4講時 模写制作

5講時 合評

受講にあたって

●持参物

墨（松煙墨、油煙墨いずれでも可）、胡粉、硯（貸出可能ですが、使い慣れた自分のものの方が良いでしょう）、絵具皿（小10枚、中2枚、大（刷毛が入る大きさのもの）1枚程度）、文珍、筆洗、刷毛（幅6cm、9cm程度のもの各1本）、則妙筆、彩色筆、平筆、面相筆、カッターナイフ、水さじ、膠（瓶に前日からふやかしたもの）、小ビン1個、雑巾、スリッパ（京都会場NC棟で開講の場合のみ）、アジャストケース（作品持ち帰り用）、梱包材料（段ボール箱等、スクーリング終了後に道具・手荷物を発送する必要がある場合のみ）

- ・梱包材料のうち、布ガムテープは大学で用意します。
- ・下記の画材を貸出しています。（当日、各教室のアシスタントに申し出てください。）
乳鉢、乳棒、膠なべ（行平）、硯、梅皿、文鎮
- ・使用する絵具のうち、胡粉以外は大学で用意します。
- ・模写スクーリング用に面相筆大、削用筆中各1本を配布します。

●諸経費

実習費：3,800円（絵具、薄美濃紙2枚、面相筆（大）、削用筆（中））

- ・スクーリング終了後、指定口座より引き落としいたします。
- ・金額は変更になる場合がございます。

注意事項

事前課題があります。必ず受講までに確認し、取り組んでください。

S	卒業制作（日本画） 科目コード： 61091
配当年次	4年次～
単位数	6
履修の前提条件	卒業制作1～2：前年度までに卒業制作着手要件を充足し、卒業制作着手の許可を受けていること。 卒業制作3～6：申込までに「卒業制作3～6」の履修の前提条件を充足していること。 （「注意事項」および『コースガイド』pp.8～9参照） ※卒業制作1～6は受講までに各事前課題に取り組むこと。
開講日程・ 開講地・定員	卒業制作1a 開催日程：2019年4月27日（土）～ 2019年4月28日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：なし 卒業制作1b 開催日程：2019年5月3日（金）～ 2019年5月4日（土） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：なし 卒業制作2a 開催日程：2019年7月6日（土）～ 2019年7月7日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：なし 卒業制作2b 開催日程：2019年7月13日（土）～ 2019年7月14日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：なし 卒業制作2c 開催日程：2019年7月27日（土）～ 2019年7月28日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：なし 卒業制作3a 開催日程：2019年10月5日（土）～ 2019年10月6日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：なし 卒業制作3b 開催日程：2019年10月12日（土）～ 2019年10月13日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：なし 卒業制作4a 開催日程：2019年11月9日（土）～ 2019年11月10日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：なし 卒業制作4b 開催日程：2019年11月16日（土）～ 2019年11月17日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：なし 卒業制作5a 開催日程：2019年12月7日（土）～ 2019年12月8日（日）

開講日程・ 開講地・定員	開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：なし
	卒業制作5b 開催日程：2019年12月21日（土）～ 2019年12月22日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：なし
	卒業制作6a 開催日程：2020年1月25日（土）～ 2020年1月26日（日） 開催地：京都、受講料： ¥13,000、定員：なし
	卒業制作6b 開催日程：2020年2月8日（土）～ 2020年2月9日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥16,000、定員：なし
担当者	松生歩*、山田真澄*、後藤吉晃*、吉川弘、八田哲 佐々木るり子他

科目概要と到達目標

卒業制作1：ガイダンス・ワークショップ・「日本画演習IV」第1課題（40号自由制作）の小下絵合評を通して、卒業制作へ至るプロセスを認識し、制作のイメージを固めてゆくことを目標とします。

（模写）：卒業制作で模写を希望する人は、「卒業制作1」で模写選択を決定します。

卒業制作2：40号自由制作合評・卒業制作小下絵と写生の合評を通じて、自己の作品を深く問い、より的確な表現方法を考えます。40号自由制作のプロセスを振り返り、卒業制作への構想を固める中で、自己の制作への客観的な視点を持ち、必要な準備や改善点を発見することを目標とします。

（模写）：模写制作に必要な手順を学ぶことを目標とします。

卒業制作3：卒業制作の草稿と写生の合評・ポートフォリオ研究・制作計画・制作相談などを通して、卒業制作に取り掛かる準備を確実にしていきます。このスクーリング後には直ちに本紙制作に入れるよう、準備が整うことが目標です。

（模写）：お手本をよく理解し、絵具の扱い方を習得することを目標とします。

卒業制作4：事前課題で進めた下地から、徐々に制作を進めます。

このスクーリングで4割程度までの進行を目標とします。

（模写）：模写制作を進めます。全体の4～5割を目標とします。

卒業制作5：卒業制作を進めます。事前課題で進めた状態から教員のアドバイスをもとに描き込み、本スクーリングで7割から8割程度の進行を目標とします。

（模写）：模写制作を進めます。全体の7～8割を目標とします。

卒業制作6：卒業制作を完成させます。スクーリング内で修正や額付けなどを行い、最終日には合評を行います。各自のコンセプトに則った、完成度の高い作品を目標とします。

（模写）：「卒業制作6」で完成を目指します。

評価基準と成績評価方法

1. 事前課題への取り組み
2. 描写力
3. 表現力
4. 準備度
5. 構成力

6. 取組む姿勢

6. 制作意図

上記の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に授業への取り組みと課題により総合的に評価します。

予習・復習

予習

各回の事前課題に入るためには、あらかじめ自身の制作のイメージを持っておく必要があります。また、モチーフによっては花の写生のように準備に数年を要するケースもあります。従いまして卒業制作着手やスクーリング日程が近づいてくる以前から、「自分は何を描きたいのか」「そのためにはどうすればいいのか」という思索と具体的な準備が必要です。自身の制作についての客観的な視座を持ち、実際に現地へ赴いて写生を重ねておきましょう。

卒業制作に模写を希望する人はこの段階までに何をお手本としたいか候補をいくつか考えておき、本や実際の展覧会などで本物を見るなどして、資料を集めておいてください。制作と模写のどちらを選択するかで悩んでいた、作品の選定に迷う時なども教員相談や書面での相談を受け付けていますので利用してください。

復習

草稿や制作に入ってからでも、自身のコンセプトにずれがないか、自問する姿勢を持ちましょう。また、制作途中でも取材の不足に気付いたら何度も現地に行き行って写生を足していきましょう。過去の作家などの考え方や技法に触れることも貴重な学習です。一枚の絵の中で最大限の学びと実験を重ねるため、事前学習の範囲を超えて別のパネルや作品で予備実験や結果の検証をしていきましょう。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『基礎から学ぶ日本画』『日本画の制作を学ぶ』
参考文献・URL	松生歩『白い紙の上に一日本画制作への向かい方とヒント』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学舎、2019年 松生歩『描くことの源泉へー発想の源を遡る』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学舎、2019年

課題

「卒業制作1」

●事前課題

40号自由制作のイメージを固め、A4サイズの任意の紙を用いて着彩小下絵を作成します。モチーフが別々、モチーフは同じで構図違い、あるいは色違いなどでも構いませんから5点作成してスクーリングに持参してください。着彩に使用する画材も任意とします。

（模写）：模写選択の人はお手本となる作品を、江戸期までの絵巻物の中から決めておいてください。

●1日目・2日目の課題

- ・卒業制作の進め方の説明を受け、過去作品を鑑賞して自身の制作のイメージを膨らませます。
- ・制作技法などの復習と発展学習を行います。事前課題で作成した40号自由制作の小下絵の合評を行い、多様な表現に触れて自身の制作計画を客観的に振り返ります。

（模写）：模写制作を希望の方は、前年度の作品などを見ながら年間の進め方の説明を受け、模写対象作品の場面を選定します。

「卒業制作2」

●事前課題

100号卒業制作の着彩小下絵A4サイズ5枚を作成し、スクーリングに持参します。卒業制作に関しては、可能な限りの写生もおきます。

※日本画演習Ⅳの第1課題である40号自由制作とレポートを自宅で完成させて他の事前課題と一緒にスクーリングに持参します。

（模写）：対象作品の上げ写しを行ってきてください。練習も兼ねて数枚行うこと。

●3日目・4日目の課題

・40号自由制作の合評を受けて、自作のコンセプトや制作プロセス、完成度について客観的に判断し、卒業制作への糧とします。

・卒業制作小下絵と写生の合評を通じて、自己のコンセプトを深く問い、よりの確な構想と表現方法について考えます。

（模写）：模写を希望する人は模写制作の対象を決定します。描いてきた上げ写しを基に計画を立てます。また仮張り用のシナベニヤの下貼りをします。

「卒業制作3」

●事前課題

卒業制作の草稿を仕上げます。卒業制作のための写生も完成させ、草稿とともにスクーリングに持参します。マチエールや線描、重色などをテストピースに行います。

（模写）：対象作品の上げ写しを仕上げてくること。

●5日目・6日目の課題

・事前課題である卒業制作の草稿と写生の合評を行います。

・合評後は指摘された点の修正を行い、個別にテストピースなどへの助言も交えて制作の相談を詰め、スクーリング後の制作に備えます。

・ポートフォリオの作成方法も学びます。制作計画も新たに作成します。

（模写）：上げ写した作品を裏打ちし、さらに彩色着手へと進めていきます。

「卒業制作4」

●事前課題

本紙をパネルに水張りします。ある程度まで下地を塗り重ねておき、スクーリング終了時に4割くらいの地点まで進められるよう調整しておきます。

（模写）：彩色模写を進めておきます。

●7日目・8日目の課題

・各自の卒業制作を描き進めます。様々なアドバイスを受けながら自身の制作についてはっきりした道標を見定め、このスクーリング中に4割程度まで仕上げるのが目標です。

（模写）：作品の彩色を進めていきます。最終日、作品の装丁の相談と講義を兼ねて表具師の先生の工房に見学に行きます。最終的な額装の注文をし、表装の裂（きれ）を選びます。

表具の張り込みを依頼する場合は後日自宅に配送となり、自宅配送後、彩色を進めます。（模写作品の装丁は全て個人注文となります。見積もりを確認し、無理のないように計画してください。また、自分で装丁する場合などは事前に教員と相談してください）

「卒業制作5」

●事前課題

本スクーリングの終了時には全体の7～8割まで制作を進めなければなりませんので、それに間に合うように自宅で相応に描いておいて下さい。

（模写）：模写制作を全体の6割程度進めておきます。

●9日目・10日目の課題

事前課題に引き続き、大学で制作を進めます。今回のスクーリングでおおよそ7～8割地点まで仕上げて

いきます。

（模写）：模写制作を進めます。

「卒業制作6」

●事前課題

最終スクーリングは制作できる時間が非常に少ないので、ほぼ完成と言えるところまで自宅で進めておきます。

（模写）：模写制作を全体の9割～完成近くまで進めます。

●11日目・12日目の課題

卒業制作を完成させ、額を装着し合評をします。

（模写）：作品を完成させ合評後に表装に出します。

授業計画

●自宅学習

「卒業制作1～6」の指定された事前課題

●スクーリング

【卒業制作1】

1日目

1～2講時 卒業制作の導入

3～5講時

自由制作：技法についてのワークショップ

模写制作：模写卒業制作の年間計画説明

2日目

1～5講時 40号自由制作の小下絵合評

【卒業制作2】

3日目

1～5講時 40号自由制作合評

4日目

1～5講時 100号卒業制作の小下絵合評

模写：上げ写し確認、色の上げ写し説明、シナベニヤ下張り実習

【卒業制作3】

5日目

1～5講時 卒業制作の草稿と写生の合評

模写：上げ写し裏打ち、仮張り、彩色の説明

6日目

1～5講時 草稿の修正、テストピース制作、ポートフォリオ作成方法の講義、制作計画作成
制作に向かったの個人指導

模写：上げ写し裏打ち、仮張り、彩色の説明

【卒業制作4】

7日目・8日目

各1～5講時 卒業制作を進める

模写：模写制作を進める

【卒業制作5】

9日目・10日目

各1～5講時 卒業制作を進める

模写：模写制作を進める

【卒業制作6】

11日目

1～5講時 卒業制作を進める、額付け

12日目

1～5講時 合評（模写合同）、撮影

●フォローアップ

以下の日程で「フォローアップ」を開催します。学習の補助として、必要な方は参加してください。

卒業制作4a：2019年11月8日（金）13:20～17:40

卒業制作4b：2019年11月15日（金）13:20～17:40

卒業制作5a：2019年12月6日（金）13:20～17:40

卒業制作5b：2019年12月20日（金）13:20～17:40

卒業制作6a：2020年1月24日（金）13:20～17:40

卒業制作6b：2020年2月7日（金）13:20～17:40

受講にあたって

●持参物

【卒業制作1】

事前課題（40号自由制作の小下絵5枚 ※各A4サイズ）、筆記用具、『日本画コース専門教育科目シラバス』（airUシラバスの「日本画演習IV」、「卒業制作」の該当ページを出力するか、印刷製本版シラバスを持参してください）

【卒業制作2】

事前課題（卒業制作の小下絵5枚 ※各A4サイズ）、卒業制作のための写生、日本画演習IV第1課題の40号自由制作とレポート、筆記用具

（模写）：上げ写し作品、仮張用シナベニヤ、制作に必要な画材、材料一式

【卒業制作3】

事前課題（卒業制作の草稿、写生）テストピース、テストピースや草稿の修正に各自が必要な画材、筆記用具

（模写）：上げ写し作品、仮張用シナベニヤ、制作に必要な画材、材料一式

【卒業制作4】

事前課題（水張りとは下地作りができている卒業制作）、制作に必要な画材・材料一式、筆洗、スリッパ（本学NC棟で開講の場合のみ）、草稿、写生、梱包材料（段ボール箱等。スクーリング終了後に道具・手荷物を発送する必要がある場合のみ）

・梱包材料のうち、布ガムテープは大学で用意します。

・下記の画材を貸出しています。（当日、各教室のアシスタントに申し出てください。）

乳鉢、乳棒、膠なべ（行平）、硯、梅皿

(模写) : 模写制作作品、制作に必要な画材、材料一式

【卒業制作5】

事前課題(制作中の卒業制作作品)、制作に必要な画材・材料一式、筆洗、スリッパ(本学NC棟で開講の場合のみ)、草稿、写生、梱包材料(段ボール箱等。スクーリング終了後に道具・手荷物を発送する必要がある場合のみ)

- ・梱包材料のうち、布ガムテープは大学で用意します。
- ・下記の画材を貸出しています。(当日、各教室のアシスタントに申し出てください。)

乳鉢、乳棒、膠なべ(行平)、硯、梅皿

(模写) : 模写制作作品、制作に必要な画材、材料一式

【卒業制作6】

事前課題(制作中の卒業制作作品)、制作画材・材料一式、筆洗、額縁、スリッパ(本学NC棟で開講の場合のみ)、草稿、写生、梱包材料(段ボール箱等。スクーリング終了後に道具・手荷物を発送する必要がある場合のみ)

- ・梱包材料のうち、布ガムテープは大学で用意します。
- ・下記の画材を貸出しています。(当日、各教室のアシスタントに申し出てください。)

乳鉢、乳棒、膠なべ(行平)、硯、梅皿

(模写) : 模写制作作品、制作に必要な画材、材料一式

●諸経費

梱包材費: 870円(「卒業制作6」終了後、卒業制作展までの間の作品保管にともなう用材費)

- ・「卒業制作6」スクーリング終了後、指定口座より引き落とします。
- ・金額は変更になる場合がございます。
- ・「卒業制作6」で東京会場を選択した場合、卒業制作展のために京都へ作品を送付する必要があるため、別途送付費用がかかります。

●その他

パネル送付について

スクーリング初日にパネルを持参することが困難な方は、事前にスクーリング会場へパネルを送ることができます。その際、以下の事項を厳守してください。

- ・宅配便(ゆうパックは不可)で送付されたパネルのみ受け付けます。
- ・梱包して平箱に入れ、箱の側面に学籍番号・氏名・住所・連絡先・「日本画 卒業制作」と明記してください。
- ・伝票の宛先は「通信日本画研究室」宛とし、必ず「元払い」で送付してください。
- ・配達指定日は以下を確認し、厳守してください。指定日以外に送付されたパネルは受け付けできません。

＜配達指定日、パネル送付先＞

- ・京都会場

卒業制作2a: 2019年7月2日(火)～7月3日(水) 指定期間必着

卒業制作4: 2019年11月5日(火)～11月6日(水) 指定期間必着

卒業制作5: 2019年12月3日(火)～12月4日(水) 指定期間必着

卒業制作6: 2020年1月21日(火)～1月22日(水) 指定期間必着

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

京都造形芸術大学 通信日本画研究室宛

電話: 075-791-9141

- ・東京会場

卒業制作2b: 2019年7月10日(火)～7月11日(水) 指定期間必着

卒業制作2c: 2019年7月23日(火)～7月24日(水) 指定期間必着

卒業制作4：2019年11月12日（火）～11月13日（水） 指定期間必着
卒業制作5：2019年12月17日（火）～12月18日（水） 指定期間必着
卒業制作6：2020年2月4日（火）～2月5日（水） 指定期間必着
〒107-0061 東京都港区北青山1-7-15
京都造形芸術大学 東京外苑キャンパス 通信日本画研究室宛
電話：03-5412-6105

注意事項

●「卒業制作1～6」の受講申込について

「卒業制作1～6」は1からの順次履修となります。各回a日程（京都）もしくはb日程（東京）を選択することができます。卒業制作スクーリングは年2回の申し込みとなりますので、忘れずに受講申し込みをしてください。

「卒業制作1～2」は春期（4・5・6月開講）スクーリング申込期間、「卒業制作3～6」は秋期（10・11・12月開講）スクーリング申込期間に、aもしくはb日程を選択し手続きを行ってください。受講料は1～6それぞれの開催回ごとに指定口座より引き落とします。

※卒業制作1・2を受講済みであっても「卒業制作3～6」申込時点で「卒業制作3～6」の履修の前提条件を満たせない場合、後半へ進むことはできず、卒業制作1・2についても次年度以降に再度受講となります。

※卒業制作受講については『コースガイド』を必ず確認してください。

※先行募集時に申し込みされなかった場合は、追加募集の募集期間に申し込みをしてください。

<追加募集申込期間>

・卒業制作1～2

a日程（京都）、b日程（東京）ともに

募集期間：4月11日（木）～4月22日（月）必着

・卒業制作3～6

a日程（京都）、b日程（東京）ともに

募集期間：9月10日（火）～9月30日（月）必着

●模写について

a日程（京都）のみ、模写制作を中心とした卒業制作を選択することができます。代表的な絵巻物を中心に古典絵画を模写することにより、より深く作品に歩み寄り古来の人々が使った素材や時代を学びます。卒業制作1のスクーリング内で卒業制作2以降の説明を別途行いますので、希望者は参加してください。

なお、模写を選択した場合も、「日本画演習Ⅳ」では自由制作の皆さんと同じ40号自由制作を行います。

b日程（東京）では模写を選択できませんので、卒業制作で模写を選択しようと思う人、あるいは迷っている人は、必ず卒業制作1をa日程（京都）で受講し教員の説明を聞いてください。

●学習上の留意点

事前課題が不十分な場合、各スクーリングでの作業が進められません。

課題は必ず他の材料などとともに忘れ物の無いように持参してください。

●留意事項

各スクーリングが終わった後、作品は自宅へ発送します。次回のスクーリングに向けて、各自必要な分だけ自宅で描き進めてください。作品発送のための梱包材料（パネル作品用平箱、エアキャップ、養生シートなど）、足りないものは各自で用意してください。

TW	日本画演習Ⅰ－1	科目コード： 61601
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	提出順序の制約なし	
課題提出形態	郵送・窓口	
課題数	2	
課題提出期間	【4/20締切分】04/11～04/20、【5/20締切分】05/11～05/20、 【7/20締切分】07/11～07/20、【8/20締切分】08/11～08/20、 【10/21締切分】10/11～10/21、【11/20締切分】11/11～11/20、 【1/20締切分】01/11～01/20、【2/20締切分】02/11～02/20 郵送・窓口での提出は締切日必着	
単位修得試験	無	
担当者	後藤吉晃*、太田利花、木田久美子、池庄司淳、鳥山武弘、佐々木るり子、森下智子、山田真澄、田中希和子、佐竹龍蔵、品川亮、北川樹里	

科目概要と到達目標

第1課題は鉛筆で静物を写生します。

第2課題は色鉛筆で静物を写生します。

鉛筆・色鉛筆と、画材の使い方を身につけながら、物の形や色、質感を的確に捉えられるよう学習していきます。

今後、日本画制作をする時に自分の想いを表現するためには、描写力や画材の使い方をすべてマスターし、深い想いをあたためた上で取り組んでこそ効果があります。

この課題では、モチーフを丹念に観察描写し、その物の本質をしっかり捉え生き生きと表現することに主眼をおきます。

評価基準と成績評価方法

第1課題

1. 描写力

- ・形、質感、モチーフの前後関係や自然な空気感を表現しているか

2. 取組む姿勢

3. 完成度

第2課題

1. 描写力

- ・形、質感、モチーフの前後関係や自然な空気感を表現しているか
- ・多くの色を使用し対象の色を表現しているか

2. 取組む姿勢

3. 完成度

上記の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。 本科目の成績評価は全課題の総合評価となります。

予習・復習

モチーフを購入する前に用意したすべての鉛筆を削り、グラデーションを作ってみましょう。
鉛筆の削り方、グラデーションなどについては、airUシラバス「日本画演習Ⅰ-1」第1課題テキスト・教材学習、またはシラバス巻末資料「TW（テキスト科目）編」をよく確認してください。
※グラデーションの作成はスクーリング科目「日本画Ⅰ-1（鉛筆写生）」の事前課題でもあります。
スクーリング受講前に本テキスト課題に取り掛かる方は「日本画Ⅰ-1」事前課題として取り組むのもよいでしょう。
スクーリング受講後に取り掛かる方は、復習としてもう1度描いてみるのもよいでしょう。グラデーションを何度か経験することで鉛筆の扱い方に慣れてきます。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『基礎から学ぶ日本画』
参考文献・URL	airUマイページ>カリキュラム一覧（シラバス）>「日本画演習Ⅰ-1」>テキスト・教材学習 松生歩『白い紙の上に日本画制作への向かい方とヒント』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学舎、2019年

作品第1課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	以下のものを作品提出用角筒に入れて一括送付 1. P10号サイズ作品（後述【紙】および【その他の画材】の項目を必ず参照すること） 2. 制作意図・感想を書いたレポート（任意のA4用紙または400字原稿用紙200～400字程度・タテ書き、ヨコ書き不問） 3. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 4. モチーフの写真1枚：L判サイズまたはプリンタ出力したもの（プリンタ出力の場合はサイズ自由、ただしA4サイズまで） 5. 返送用宛名シール（返送先明記、提出時と同額の切手貼付） ■提出注意事項 提出物の内容が守られていない場合は不備となることがあります。 作品表面左下およびモチーフ写真裏面に、「学籍番号・氏名・第○課題・○回目提出」を明記し、大学から送付する「作品提出用角筒」に巻き入れて提出してください。 作品には必ず該当する添削指導評価書を添付してください。 ■講評の際の参考にしますので、レポートは添削指導評価書にホッチキス止めしてください（学籍番号、氏名、科目名、課題名を明記）。 なお、感想に質問は記入しないでください。課題の制作過程における質問がある場合は『学習ガイド』の「問い合わせ方法」を参照してください。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出課題作品 ※再提出の場合は、前回の作品に加筆するのではなく、新しい作品を制作し提出すること。 2. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 3. モチーフの写真

再提出物
(一括送付)

4. 前回提出 (=D評価) の提出物すべて (添削指導評価書 (添削文含む)、D評価の作品、モチーフの写真、添削入り作品コピー)
5. 返送用宛名シール (返送先明記、提出時と同額の切手貼付)

課題の内容

「鉛筆による細密描写」

りんご1個とバナナ1本をじっくりと時間をかけて鉛筆で細密に描写する。

※背景は描かずにモチーフのみを描いてください。

以下を、よく確認して課題に取り組んでください。

画材については、airUシラバス「日本画演習Ⅰ-1」第1課題テキスト・教材学習、またはシラバス巻末資料「画材編」

課題に取り組むにあたっては、airUシラバス「日本画演習Ⅰ-1」第1課題テキスト・教材学習、またはシラバス巻末資料「TW (テキスト科目) 編」

●用意するもの

【紙】

F10号スケッチブック (※) を各自で用意してください。

※スケッチブックとクロッキー帳は異なります。購入する際は紙質等を確認し、必ず画用紙のスケッチブックを準備してください。

※課題では細密描写をしますので、スケッチブックの紙質は目の細かい滑らかなほうが適しています。一例として、オリオン社製の『オリオン シリウスブック 特厚口／DR-F10』が描きやすいと思いますが、他社のものでも構いません。ただし、その場合は紙の目ができるだけ細かいものが望ましいです。

以下の2箇所では前述のスケッチブックが購入できます。

・ADストア (大学購買部)

・鴻業堂

申込方法については、airUシラバス「日本画演習Ⅰ-1」第1課題テキスト・教材学習、またはシラバス巻末資料「画材申込編」参照

P10号サイズに紙をカットしてください。

F10号スケッチブックより1枚切り離し、P10号サイズ (53.4×41.0cm) にカットします。長編 (53.4cm) はそのまま残し、短編 (45.5cm) を41.0cmにカットするとよいでしょう。

【その他の画材】

鉛筆 (2H～4B)、プラスチック消しゴム、練り消しゴム、カッターナイフ (鉛筆削り用)、フィキサチーフ (鉛筆の粉を定着するための液)、羽箒

・鉛筆の濃度

鉛筆の硬さの段階はメーカーにより異なりますが、10H {硬い (薄い)} ～10B {軟らかい (濃い)} まであります。日本画コースの課題制作では2H ～ 4B程度までがあれば充分です。

2H H F HB B 2B 3B 4B

薄い → → → 濃い

描きはじめる前に、鉛筆はカッターナイフで削り先を尖らせておきましょう。

・プラスチック消しゴム…一般的な消しゴムのこと。消したい部分を擦って消しますが、何度も強く擦ると紙を傷めるので注意しましょう。ゴムの表面が鉛筆の粉で黒くなった場合は、他の紙で擦ってきれいにしてから使います。

・練り消しゴム…使う分だけ (親指大くらい) ちぎり、練って軟らかくして擦らずに軽く押さえるよう

にして使うと紙を傷めません。ゴムの表面が黒く汚れた場合、練ってきれいな面を出すと何度でも使えます。

【モチーフ】

りんご（赤）1個、バナナ1本（数を厳守してください）

・モチーフ選びのポイント

絵を描くことはモチーフを選ぶところから既に始まっています。良いモチーフを選ぶことは描くこと以上に大切なことでもあります。それぞれ新鮮で、自分が描きたいと思うものを選んでください。りんごは茎がしっかりしていて形に張りのある大きなもの、バナナは傷みが早く変色しやすいので特に新鮮なものがよいでしょう。

野菜や果物は時間の経過とともにどんどん変化していきます。変化していく過程を観察し、その中で一番心惹かれた表情を捉えることを念頭において描きましょう。描いている途中で大きく変わってしまい描きにくいと感じた場合は、新しいものを再び用意したり、新鮮なものをもう一度観察することも必要です。

●進め方

準備が整ったら、いよいよ描きはじめますが、ここから先の進め方は以下をよく確認して、取り組んでください。

airUシラバス「日本画演習Ⅰ-1」第1課題テキスト・教材学習、またはシラバス巻末資料「TW（テキスト科目）編」

学習のポイント

この課題でする写生は、制作のための写生ではなく、日本画を学ぶための基礎となる土台を養うためのものです。

その観点から、まず、りんごとバナナそれぞれの良い形（正確さ、そのものらしさ）を捉えるばかりではなく、2個のモチーフの正確な位置関係が捉えられることも大切です。

もう一つは、モチーフ固有の色をモノクロームに置き換えて質感を表現することです。りんごの薄皮のツルツルした感じ、バナナの厚みのあるしっとり滑らかな表皮の違いを表現し、食物としての魅力を鉛筆の使い方を駆使して表現します。

日ごろ見慣れているものでも、いざ描こうとして真剣に見てみると新たな発見があると思います。じっくり時間を掛けて取り組み、観察する目と描写する力を養ってください。

作品第2課題

課題コード：21

初回提出物 (一括送付)

以下のものを作品提出用角筒に入れて一括送付

1. P10号サイズ作品（後述【紙】および【その他の画材】の項目を必ず参照すること）
2. 制作意図・感想を書いたレポート（任意のA4用紙または400字原稿用紙200～400字程度・タテ書き、ヨコ書き不問）
3. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入）
4. モチーフの写真1枚：L判サイズまたはプリンタ出力したもの（プリンタ出力の場合はサイズ自由、ただしA4サイズまで）
5. 返送用宛名シール（返送先明記、提出時と同額の切手貼付）

■提出注意事項

提出物の内容が守られていない場合は不備となることがあります。

作品表面左下およびモチーフ写真裏面に、「学籍番号・氏名・第○課題・○回目提出」を明記し、大学から送付する「作品提出用角筒」に巻き入れて提出してください。

初回提出物 (一括送付)	作品には必ず該当する添削指導評価書を添付してください。 ■ 講評の際の参考にしますので、レポートは添削指導評価書にホッチキス止めしてください(学籍番号、氏名、科目名、課題名を明記)。 なお、感想に質問は記入しないでください。課題の制作過程における質問がある場合は『学習ガイド』の「問い合わせ方法」を参照してください。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出課題作品 ※再提出の場合は、前回の作品に加筆するのではなく、新しい作品を制作し提出すること。 2. 再提出用添削指導評価書(『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入) 3. モチーフの写真 4. 前回提出(=D評価)の提出物すべて(添削指導評価書(添削文含む)、D評価の作品、モチーフの写真、添削入り作品コピー) 5. 返送用宛名シール(返送先明記、提出時と同額の切手貼付)

課題の内容

「色鉛筆による細密描写(1)」

無機物(皿)と有機物(サツマイモ、タマネギ)を組み合わせ、対象を時間をかけて忠実に描写する。
 ※背景は描かずにモチーフのみを描いてください。

TW	日本画演習Ⅰ－2	科目コード： 61602
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※本科目は「日本画演習Ⅰ-1」履修後を想定し内容を設定しています。写生の技法を修得しておくことが必要ですので、可能な限り、「日本画演習Ⅰ-1」を先に履修してください。	
履修方法	提出順序の制約なし	
課題提出形態	郵送・窓口	
課題数	2	
課題提出期間	【4/20締切分】04/11～04/20、【5/20締切分】05/11～05/20、 【7/20締切分】07/11～07/20、【8/20締切分】08/11～08/20、 【10/21締切分】10/11～10/21、【11/20締切分】11/11～11/20、 【1/20締切分】01/11～01/20、【2/20締切分】02/11～02/20 郵送・窓口での提出は締切日必着	
単位修得試験	無	
担当者	後藤吉晃*、太田利花、木田久美子、池庄司淳、鳥山武弘、佐々木るり子、森下智子、田中希和子、佐竹龍蔵、品川亮、北川樹里、山田真澄	

科目概要と到達目標

第1課題は色鉛筆で静物を写生します。

第2課題は静物を写生した後、水干・岩絵具で制作します。

第1課題および第2課題の写生では多種多様な形や色、質感のモチーフを描くことで描写力を磨きます。心惹かれるモチーフを選択する目を持ち、魅力ある取り合わせや配置を考え、更に美意識を高めてください。

色鉛筆の混色を工夫して色での表現を更に深め、様々なモチーフの質の違いを描き分けることを目標とします。

第2課題では、これまで培った描写力を最大限に活かして写生し、それを制作します。複雑で工程の多い日本画の制作過程を一通り体験する中で、日本画の画材の基本的な扱い方の修得を目指します。

制作においては、モチーフのみを描いてきたこれまでの写生の課題とは異なり、背景にも彩色することで一画面に自身の思いをどのように表現するかを試みます。

評価基準と成績評価方法

第1課題

1. 描写力

- ・形、質感、モチーフの前後関係や自然な空気感を表現しているか
- ・多くの色を使用し対象の色を表現しているか

2. 取組む姿勢

3. 完成度

第2課題

1. 描写力
2. 表現力
3. 取組む姿勢
4. 構想力
5. 完成度
6. 画材の基礎的な技術力

上記の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。 本科目の成績評価は全課題の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『基礎から学ぶ日本画』
参考文献・URL	airUマイページ>カリキュラム一覧（シラバス）>「日本画演習Ⅰ-2」>テキスト・教材学習 松生歩『白い紙の上に一日本画制作への向かい方とヒント』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学舎、2019年

作品第1課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	以下のものを作品提出用角筒に入れて一括送付 1. F10号スケッチブックから切り離した作品（【紙】および【その他の画材】の項目を必ず参照してください） 2. 制作意図・感想を書いたレポート（任意のA4用紙または400字原稿用紙200～400字程度・タテ書き、ヨコ書き不問） 3. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 4. モチーフの写真1枚：L判サイズまたはプリンタ出力したもの（プリンタ出力の場合はサイズ自由、ただしA4サイズまで） 5. 返送用宛名シール（返送先明記、提出時と同額の切手貼付） ■提出注意事項 提出物の内容が守られていない場合は不備となることがあります。 作品表面左下およびモチーフ写真裏面に、「学籍番号・氏名・第○課題・○回目提出」を明記し、大学から送付する「作品提出用角筒」に巻き入れて提出してください。 作品には、必ず該当する添削指導評価書を添付してください。 ■講評の際の参考にしますので、レポートは添削指導評価書にホッチキス止めしてください（学籍番号、氏名、科目名、課題名を明記）。 なお、感想に質問は記入しないでください。課題の制作過程における質問がある場合は『学習ガイド』の「問い合わせ方法」を参照してください。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出課題作品 ※再提出の場合は、前回の作品に加筆するのではなく、新しい作品を制作し提出すること。 2. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 3. モチーフの写真 3. 前回提出（=D評価）の提出物すべて（添削指導評価書（添削文含む）、D評価の作品、モチーフの写真、添削入り作品コピー） 4. 返送用宛名シール（返送先明記、提出時と同額の切手貼付）

課題の内容

「色鉛筆による細密描写（2）」

無機物（ワインボトル）と有機物（フランスパン、野菜または果物）を組み合わせで色鉛筆で細密に描写する。

※背景は描かずにモチーフのみを描いてください。

初回提出物 (一括送付)	以下のものを絵画作品送付用平箱（10号）に入れて一括送付 1. 写生 F10号スケッチブックから切り離した作品（第1課題の【紙】の項を必ず参照してください） 2. 作品 F10号パネルに吉祥麻紙を水張りしたもの1枚 3. 制作意図・感想を書いたレポート（任意のA4用紙または400字原稿用紙200～400字程度・タテ書き、ヨコ書き不問） 4. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 5. モチーフの写真1枚：L判サイズまたはプリンタ出力したもの（プリンタ出力の場合はサイズ自由、ただしA4サイズまで） 6. 作品返却用宅配便着払い伝票（返送先明記） ■提出注意事項 提出物の内容が守られていない場合は不備となることがあります。 写生表面左下、作品裏面左下、モチーフ写真裏面に「学籍番号・氏名・第○課題・○回目提出」を記載したメモを貼付してください。 大学から送付する「絵画作品送付用平箱」でパネルごと提出してください。 平箱で作品を送付する場合、添削指導評価書、作品返却用宅配便着払い伝票等は揃えてクリアファイルに入れてから箱に同封してください。 郵送中に作品が箱の中で動き画面が傷つかないように、梱包材を詰めるなど工夫してください。 平箱には側面に「学籍番号・氏名・住所・連絡先」を明記してください。 提出する際は「元払い」で送付してください（返却時は着払いで発送します）。 ※作品返却用宅配便着払い伝票について（返却用ですので、箱には貼付しないでください） 宅配便着払い伝票の「お届け先」欄に氏名、学籍番号、住所、電話番号等を明記の上、箱に同封してください。 ■講評の際の参考にしますので、レポートは添削指導評価書にホッチキス止めしてください（学籍番号、氏名、科目名、課題名を明記）。 なお、感想に質問は記入しないでください。課題の制作過程における質問がある場合は『学習ガイド』の「問い合わせ方法」を参照してください。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出課題作品 ※再提出の場合は、前回の作品に加筆するのではなく、新しい作品を制作し提出すること。

再提出物 (一括送付)	2. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 3. 前回提出（=D評価）の提出物すべて（添削指導評価書（添削文含む）、D評価の作品、モチーフの写真、添削入り作品コピー） 4. 作品返却用宅配便着払い伝票（返送先明記）
----------------	---

課題の内容

「色鉛筆写生と水干・岩絵具による制作」

大きさ、形状、色の異なる野菜を複数個組み合わせて写生し、それを基に水干絵具・岩絵具で吉祥麻紙に制作する。

※ 背景も着彩してください。

TW	日本画演習Ⅱ－1 科目コード： 61603
配当年次	2年次～
単位数	2
履修の前提条件	「日本画演習Ⅰ－1」および「日本画演習Ⅰ－2」を合格済みであること。 ※ 「日本画演習Ⅱ－1」・「日本画演習Ⅱ－2」はどちらから履修してもかまいません。
履修方法	提出順序の制約なし ※ただし、第2課題は第1課題の写生を基に制作することを想定し内容を設定しています。
課題提出形態	郵送・窓口
課題数	2
課題提出期間	【4/20締切分】04/11～04/20、【5/20締切分】05/11～05/20、 【7/20締切分】07/11～07/20、【8/20締切分】08/11～08/20、 【10/21締切分】10/11～10/21、【11/20締切分】11/11～11/20、 【1/20締切分】01/11～01/20、【2/20締切分】02/11～02/20 郵送・窓口での提出は締切日必着
単位修得試験	無
担当者	山田真澄*、久野隆史、木田久美子、池庄司淳

科目概要と到達目標

第1課題では風景の写生を、第2課題では第1課題を基に制作を行います。

「風景」の中から自分なりのテーマを見つけて写生をします。様々な景色から発信されてくるものを、自分の感性で感じとりながらテーマをしぼり、制作のための写生を目指します。

さらに写生で感じた感動をイメージしながら、水干・岩絵具を使って日本画制作をします。写生で得られた印象から、自分の絵画表現を見つけることを目標とします。

評価基準と成績評価方法

第1課題

1. 描写力
2. 表現力
3. 構想力
4. 取組む姿勢
5. 制作意図
6. 完成度

第2課題

1. 絵画表現としての描写力
2. 表現力
3. 取組む姿勢
4. 制作意図
5. 完成度

上記の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。本科目の成績評価は全課題の総合評価となります。

テキスト	『基礎から学ぶ日本画』『日本画の制作を学ぶ』
参考文献・URL	airUマイページ>カリキュラム一覧(シラバス)>「日本画演習Ⅱ-1」>テキスト・教材学習 松生歩『白い紙の上に一日本画制作への向かい方とヒント』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学舎、2019年

作品第1課題

課題コード: 11

初回提出物 (一括送付)	以下のものを作品提出用角筒に入れて一括送付 1. 写生 F10号スケッチブックから切りとった用紙を2～4枚つなげて使用すること。この範囲で描きたいものの大きさに合わせて写生をしてください。 ※風景の場所名を裏面に明記 2. 制作意図・感想を書いたレポート(大学指定レポート冊子原稿用紙面または任意の400字原稿用紙400字程度・タテ書き、ヨコ書き不問) 3. 添削指導評価書(『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入) 4. 返送用宛名シール(返送先明記、提出時と同額の切手貼付) ■提出注意事項 提出物の内容が守られていない場合は不備となることがあります。 作品表面左下に「学籍番号・氏名・第○課題・○回目提出」を明記し、大学から送付する「作品提出用角筒」に巻き入れて提出してください。 作品には必ず該当する添削指導評価書を添付してください。 作品のつなげた部分がはがれないよう、提出の際には粘着力の弱いマスキングテープ等は使用せず、しっかりとしたテープで補強してください。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出課題作品 ※再提出の場合は、前回の作品に加筆するのではなく、新しい作品を制作し提出すること。 ※作品の内容によっては加筆による再提出になることがあります。その場合は教員が総評にて指示します。 2. 再提出用添削指導評価書(『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入) 3. 前回提出(=D評価)の提出物すべて(添削指導評価書(添削文含む)、D評価の作品、添削入り作品コピー) 4. 添削指導評価書にて教員が提出するように指定したもの 5. 返送用宛名シール(返送先明記、提出時と同額の切手貼付) ■再提出にあたっての注意事項 ・再提出時のレポートについて 添削文を読み、返却された作品をじっくりと見つめ直してください。そして、再度取り組んだ課題についての感想・画想を新たに書き、初回提出時のレポートとともに提出してください。

課題の内容

「風景制作のための写生」

いつも通る所や見慣れた場所（近所の散歩道、通勤コースや自分の部屋の窓からの風景など）の中で自分の気に入っている風景や、旅をして描きたいと思った風景などを選んで写生をして下さい。この写生を基に第2課題では20号（F・P・Mいずれも可）の大きさに制作するため、できるだけ大きく描くことを心がけましょう。

※写真を見ながら描いた屋内制作は不可。必ず現地での写生を行うこと。

※ 第1課題を制作・提出して、第2課題に向けての添削指導を受けてから、第2課題に取り掛かるようにしましょう。

作品第2課題

課題コード：21

初回提出物 (一括送付)

以下のものを絵画作品送付用平箱（20号）に入れて一括送付

1. 作品 20号パネル（F（72.7×60.6cm）・P（72.7×53.0cm）・M（72.7×50.0cm）いずれも可）に雲肌麻紙を水張りしたもの1枚
2. 草稿 20号（F・P・M）と同寸大のサイズのもの1枚（模造紙、草稿紙、その他薄手の紙を使用。折り畳み可）※1
3. 小下絵（小下絵を作成した場合は提出してください。）
4. 制作意図・感想を書いたレポート（大学指定レポート冊子原稿用紙面または任意の400字原稿用紙400字程度・タテ書き、ヨコ書き不問）
5. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入）
6. 第1課題の添削された添削指導評価書（第1課題を先に提出し、返却されている場合のみ）

初回提出物 (一括送付)	7. 作品返却用宅配便着払い伝票（返送先明記） ※写生を20号サイズで描き、構図の修正がなく、写生をそのままトレースした場合は、トレーシングペーパーを草稿として提出してください。 ※課題返却時に授業アンケートを同封しております。添削確認後に授業アンケートへのご協力をお願いします。 ■提出注意事項 提出物の内容が守られていない場合は不備となることがあります。 作品裏面左下に「学籍番号・氏名・第○課題・○回目提出」を明記したメモを貼付してください。 大学から送付する「絵画作品送付用平箱」でパネルごと提出してください。 平箱で作品を送付する場合、添削指導評価書、作品返却用宅配便着払い伝票、レポート等は、揃えてクリアファイルに入れてから箱に同封してください。 平箱には側面に「学籍番号・氏名・住所・連絡先」を明記してください。 提出する際は「元払い」で送付してください（返却時は着払いで発送します）。 ※作品返却用宅配便着払い伝票について（返却用ですので、箱には貼付しないでください） 宅配便着払い伝票の「お届け先」欄に氏名、学籍番号、住所、電話番号等を明記の上、箱に同封してください。 レポートには「学籍番号・氏名・第○課題・○回目提出」を明記してください。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出課題作品 ※再提出の場合は、前回の作品に加筆するのではなく、新しい作品を制作し提出すること。 ※作品の内容によっては加筆による再提出になることがあります。その場合は教員が総評にて指示します。 2. 再提出にあたってのレポート 3. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 4. 前回提出（=D評価）の提出物すべて（添削指導評価書（添削文含む）、D評価の作品、添削入り作品コピー） 5. 添削指導評価書にて教員が提出するように指定したもの 6. 作品返却用宅配便着払い伝票（返送先明記） ■再提出にあたっての注意事項 ・再提出時のレポートについて 添削文を読み、返却された作品をじっくりと見つめ直してください。そして、再度取り組んだ課題についての感想・画想を新たに書き、初回提出時のレポートとともに提出してください。

課題の内容

「水干・岩絵具による風景制作」

第1課題の写生を基に、水干絵具、岩絵具で制作する。

※第1課題で写生したものを基に制作をしてください。第1課題を制作・提出して、第2課題に向けての添削指導を受けてから、第2課題に取り掛かるようにしましょう。

TW	日本画演習Ⅱ－2 科目コード： 61604
配当年次	2年次～
単位数	2
履修の前提条件	「日本画演習Ⅰ－1」および「日本画演習Ⅰ－2」を合格済みであること。 ※「日本画演習Ⅱ－1」・「日本画演習Ⅱ－2」はどちらから履修してもかまいません。
履修方法	提出順序の制約なし ※ただし、第2課題は第1課題の写生を基に制作することを想定し内容を設定しています。
課題提出形態	郵送・窓口
課題数	2
課題提出期間	【4/20締切分】04/11～04/20、【5/20締切分】05/11～05/20、 【7/20締切分】07/11～07/20、【8/20締切分】08/11～08/20、 【10/21締切分】10/11～10/21、【11/20締切分】11/11～11/20、 【1/20締切分】01/11～01/20、【2/20締切分】02/11～02/20 郵送・窓口での提出は締切日必着
単位修得試験	無
担当者	山田真澄*、太田利花、木田久美子、田中希和子、閑林宏祐、柘植香里

科目概要と到達目標

第1課題では静物の写生を、第2課題では第1課題を基に制作を行います。
切花と好みのモチーフを組み合わせて静物画を描きます。各モチーフの大きさや質感の違い、色合い等を考え、自分自身の美意識でモチーフ同士の位置関係や構図を決めます。いくつかの異なったモチーフのそれぞれの形、質感、色等の特性を引き出すことが肝要です。課題毎にじっくりと取り組み、写生の段階からどのように制作へつなげていくかといった絵づくりを学ぶことを目標とします。

評価基準と成績評価方法

第1課題

1. 描写力
2. 表現力
3. 構想力
4. 取組む姿勢
5. 制作意図
6. 完成度

第2課題

1. 絵画表現としての描写力
2. 表現力
3. 取組む姿勢
4. 制作意図
5. 完成度

上記の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。本科目の成績評価は全課題の総合評価となります。

テキスト	『基礎から学ぶ日本画』『日本画の制作を学ぶ』
参考文献・URL	airUマイページ>カリキュラム一覧（シラバス）>「日本画演習Ⅱ-2」>テキスト・教材学習 松生歩『白い紙の上に一日本画制作への向かい方とヒント』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学舎、2019年

作品第1課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	以下のものを作品提出用角筒に入れて一括送付 1. 写生1枚 P10号サイズ（53×41cm）の画用紙またはケント紙 2. 制作意図・感想を書いたレポート（大学指定レポート冊子原稿用紙面または任意の400字原稿用紙 400字程度・タテ書き、ヨコ書き不問） 3. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 4. 返送用宛名シール（返送先明記、提出時と同額の切手貼付） ■提出注意事項 提出物の内容が守られていない場合は不備となることがあります。 作品表面左下に「学籍番号・氏名・第○課題・○回目提出」を明記し、大学から送付する「作品提出用角筒」に巻き入れて提出してください。 作品には必ず該当する添削指導評価書を添付してください。 レポートには「学籍番号・氏名・第○課題・○回目提出」を明記してください。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出課題作品 ※再提出の場合は、前回の作品に加筆するのではなく、新しい作品を制作し提出すること。 ※作品の内容によっては加筆による再提出となることがあります。その場合は教員が総評にて指示します。 2. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 3. 前回提出（=D評価）の提出物すべて（添削指導評価書（添削文含む）、D評価の作品、添削入り作品コピー、レポート） 4. 返送用宛名シール（返送先明記、提出時と同額の切手貼付） ■再提出にあたっての注意事項 ・再提出時のレポートについて 添削文を読み、返却された作品をじっくりと見つめ直してください。そして、再度取り組んだ課題についての感想・画想を新たに書き、初回提出時のレポートとともに提出してください。

課題の内容

「静物制作のための写生」

切花と異なる複数の静物を自由に組み合わせて写生する。この写生を基に第2課題の制作をします。

※ 第1課題を制作・提出して、第2課題に向けての添削指導を受けてから、第2課題に取り掛かるようにしましょう。

作品第2課題

課題コード：21

初回提出物 (一括送付)	以下のものを絵画作品送付用平箱（10号）に入れて一括送付 1. 作品 P10号パネルに麻紙または楮紙を水張りしたもの1枚 2. 制作意図・感想を書いたレポート（大学指定レポート冊子原稿用紙面または任意の400字原稿用紙 400字程度・タテ書き、ヨコ書き不問） 3. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 4. 第1課題の添削された添削指導評価書（第1課題を先に提出し、返却されている場合のみ） 5. 作品返却用宅配便着払い伝票（返送先明記） ■提出注意事項 提出物の内容が守られていない場合は不備となることがあります。 作品裏面左下に「学籍番号・氏名・第○課題・○回目提出」を明記したメモを貼付してください。 大学から送付する「絵画作品送付用平箱」でパネルごと提出してください。 平箱で作品を送付する場合、添削指導評価書、作品返却用宅配便着払い伝票、レポート等は、揃えてクリアファイルに入れてから箱に同封してください。 平箱には側面に「学籍番号・氏名・住所・連絡先」を明記してください。 提出する際は「元払い」で送付してください（返却時は着払いで発送します）。 ※作品返却用宅配便着払い伝票について（返却用ですので、箱には貼付しないでください） 宅配便着払い伝票の「お届け先」欄に氏名、学籍番号、住所、電話番号等を明記の上、箱に同封してください。 レポートには「学籍番号・氏名・第○課題・○回目提出」を明記してください。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出課題作品 ※再提出の場合は、前回の作品に加筆するのではなく、新しい作品を制作し提出すること。 ※作品の内容によっては加筆による再提出となることがあります。その場合は教員が総評にて指示します。 2. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 3. 前回D評価の提出物すべて（D評価の添削指導評価書、添削入り作品コピー、レポート ※作品は除く） 4. 作品返却用宅配便着払い伝票（返送先明記）

再提出物 (一括送付)	■再提出にあたっての注意事項 ・再提出時のレポートについて 添削文を読み、返却された作品をじっくりと見つめ直してください。そして、再度取り組んだ課題についての感想・画想を新たに書き、初回提出時のレポートとともに提出してください。
----------------	--

課題の内容

「水干・岩絵具による静物制作」

第1課題の写生を基に水干・岩絵具で制作する。

※第1課題で写生したものを基に制作をしてください。第1課題を制作・提出して、第2課題に向けての添削指導を受けてから、第2課題に取り掛かるようにしましょう。

※背景までしっかり描いてください。

TW	日本画演習Ⅲ－1 科目コード： 61605
配当年次	3年次～
単位数	2
履修の前提条件	「日本画演習Ⅰ－1」～「日本画演習Ⅱ－2」の4科目を合格済みであること。 ※「日本画演習ⅢⅠ－1」・「日本画演習ⅢⅡ－2」はどちらから履修してもかまいません。
履修方法	第1課題合格後、第2課題提出
課題提出形態	郵送・窓口
課題数	2
課題提出期間	【4/20締切分】04/11～04/20、【5/20締切分】05/11～05/20、 【7/20締切分】07/11～07/20、【8/20締切分】08/11～08/20、 【10/21締切分】10/11～10/21、【11/20締切分】11/11～11/20、 【1/20締切分】01/11～01/20、【2/20締切分】02/11～02/20 郵送・窓口での提出は締切日必着
単位修得試験	無
担当者	松生歩*、佐竹龍蔵

科目概要と到達目標

第1課題では自画像の写生を、第2課題では第1課題を基に自画像制作を行います。

第1課題では鏡を前にして自身を観察し、まず顔や上半身の素描を10枚以上描きます。制作した素描の中から作品にしたいポーズを選び、木炭紙大の紙にじっくりと上半身自画像の色鉛筆写生を行います。この写生をもとにして制作を行うこととなりますから、形も色も深く観察して、緻密な描写をしましょう。

第2課題では第1課題で制作した写生を基に、15号の自画像制作を行います。自身の特徴をよく掴み、自分らしさや日常の思いが表出した作品になるよう試みてください。この制作を通して人体の特徴を理解し、自分なりの表現力を養うことが目標となります。

評価基準と成績評価方法

第1課題

1. 描写力
2. 表現力
3. 構想力（草稿作成に必要な力）
4. 取組む姿勢
5. 制作意図
6. 完成度

第2課題

1. 描写力
2. 表現力
3. 構想力
4. 取組む姿勢
5. 制作意図
6. 完成度

上記の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。本科目の成績評価は全課題の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『基礎から学ぶ日本画』（自画像I、自画像IIの項目）、『日本画の制作を学ぶ』
参考文献・URL	airUマイページ>カリキュラム一覧（シラバス）>「日本画演習Ⅲ-1」>テキスト・教材学習 松生歩『白い紙の上に一日本画制作への向かい方とヒント』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学舎、2019年

作品第1課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	以下のものを作品提出用角筒に入れて一括送付 1. 素描 A4×10枚以上、または大きな紙にA4サイズの素描を10ポーズ以上 2. 写生1枚 木炭紙大（65×50cm）の画用紙またはケント紙（B2サイズのを木炭紙大にカットして使う）※木炭紙は使用しないこと。 3. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 4. 返送用宛名シール（返送先明記、提出時と同額の切手貼付） ■提出注意事項 提出物の内容が守られていない場合は不備となることがあります。 作品表面左下に「学籍番号・氏名・第○課題・○回目提出」を明記し、大学から送付する「作品提出用角筒」に巻き入れて提出してください。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出課題作品 ※再提出の場合は前回の作品に加筆するのではなく、新しい作品（素描も含む）を制作し提出すること。 ※作品の内容によっては加筆による再提出となることがあります。その場合は教員が総評にて指示します。 2. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 3. 前回D評価の提出物すべて（D評価の添削指導評価書、素描、写生、添削入り作品コピー） 4. 添削指導評価書にて教員が提出するように指定したもの 5. 返送用宛名シール（返送先明記、提出時と同額の切手貼付）

課題の内容

「自画像素描および写生」

はじめに、自分の顔や上半身をA4の任意の紙に10ポーズ以上、素描します。
続いて木炭紙サイズの「画用紙」または「ケント紙」に上半身の色鉛筆写生をします。

作品第2課題

課題コード：21

初回提出物 (一括送付)	以下のものを絵画作品送付用平箱（F20号）に入れて一括送付 1. 作品1点 15号パネル（F（65.2×53cm）、P（65.2×50cm）いずれも可）に雲肌麻紙または高知麻紙・土佐麻紙を水張りしたもの（ドーサ引きする場合は、テキスト『基礎から学ぶ日本画』p.212を参照） 2. 大学指定レポート冊子原稿用紙面または任意の400字原稿用紙（400字程度・タテ書き、ヨコ書き不問）に、作品のタイトルと制作意図や感想などを書き、添削指導評価書の次のページに添付。ホッチキス止めをすること。 3. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 4. 作品返却用宅配便着払い伝票（返送先明記） ■提出注意事項 提出物の内容が守られていない場合は不備となることがあります。 作品裏面左下に「学籍番号・氏名・第○課題・○回目提出」を記載したメモを貼付してください。 作品は大学から送付する「絵画作品送付用平箱」でパネルごと提出してください。平箱で作品を送付する場合、添削指導評価書、作品返却用宅配便着払い伝票、レポート等は揃えてクリアファイルに入れてから箱に同封してください。 郵送中に作品が箱の中で動き画面が傷つかないように、梱包材を詰めるなど工夫してください。 平箱には側面に「学籍番号・氏名・住所・連絡先」を明記してください。 提出する際は「元払い」で送付してください（返却時は着払いで発送します）。※作品返却用宅配便着払い伝票について（返却用ですので、箱には貼付しないでください） 宅配便着払い伝票の「お届け先」欄に氏名、学籍番号、住所、電話番号等を明記の上、箱に同封してください。 第1課題合格後、添削での注意事項をふまえて第2課題を制作してください。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出課題作品 ※再提出の場合は前回の作品に加筆するのではなく、新しい作品を制作し提出すること。

再提出物 (一括送付)	※作品の内容によっては加筆による再提出となることがあります。その場合は教員が総評にて指示します。 2. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 3. 前回D評価の提出物すべて（D評価の添削指導評価書、レポート、添削入り作品コピー、※作品は除く） 4. 添削指導評価書にて教員が提出するように指定したもの 5. 作品返却用宅配便着払い伝票（返送先明記）
----------------	---

課題の内容

「上半身自画像制作」

第1課題で行った写生を基に制作します。

※第1課題合格後でなくては取りかかれませんので注意してください。添削での注意点や改善点を再考し、修正後に制作してください。

TW	日本画演習Ⅲ－2
配当年次	3年次～
単位数	2
履修の前提条件	「日本画演習Ⅰ－1」～「日本画演習Ⅱ－2」の4科目を合格済みであること。 ※「日本画演習Ⅲ－1」・「日本画演習Ⅲ－2」はどちらから履修してもかまいません。
履修方法	提出順序の制約なし
課題提出形態	郵送・窓口
課題数	2
課題提出期間	【4/20締切分】04/11～04/20、【5/20締切分】05/11～05/20、 【7/20締切分】07/11～07/20、【8/20締切分】08/11～08/20、 【10/21締切分】10/11～10/21、【11/20締切分】11/11～11/20、 【1/20締切分】01/11～01/20、【2/20締切分】02/11～02/20 郵送・窓口での提出は締切日必着
単位修得試験	無
担当者	山田真澄*、木田久美子、池庄司淳、田中希和子、閑林宏祐、柘植香里

科目概要と到達目標

第1課題では木の写生を、第2課題では花または実のついた植物の写生を行います。

第1課題では大地から伸びる大きな木の生命力を感じながら、これまでの課題では経験したことのない大きな画面への挑戦を体験してください。

第2課題は同じように地面から生えている植物です。「日本画演習Ⅱ－2」、「日本画Ⅲ－1」でモチーフとした切花とは違い、土からはえた様子を一つの生命としてとらえ、その象徴として花や実をよく観察しながら描いてください。木や植物の生命力や刻々と変わっていく様子を十分に感じとりながら、大きな画面に力一杯のびのびと描ききってください。

この課題は大きな画面に直接目で見たものを描くことが目標です。小さく描いた写生を拡大コピーし大きな画面に写したり、写真を使用することはせず、目の前のモチーフにじっくりと向かってください。

評価基準と成績評価方法

第1課題

1. 描写力
2. 表現力
3. 取組む姿勢
4. 制作意図
5. 完成度

第2課題

1. 描写力
2. 表現力
3. 構想力
4. 取組む姿勢
5. 制作意図
6. 完成度

上記の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。 本科目の成績評価は全課題の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『日本画の制作を学ぶ』
参考文献・URL	airUマイページ>カリキュラム一覧（シラバス）>「日本画演習Ⅲ-2」>テキスト・教材学習 松生歩『白い紙の上に日本画制作への向かい方とヒント』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学舎、2019年

作品第1課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	以下のものを作品提出用角筒または絵画作品送付用平箱に入れて一括送付 1. 写生 F10号スケッチブックから切りとった用紙を2～4枚つなげたもの、もしくはB全サイズ（72.8×103cm）1枚（用紙は自由） 2. 制作意図・感想を書いたレポート（大学指定のレポート用紙1枚程度） 3. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 4. 角筒の場合は返送用宛名シール（返送先明記、提出時と同額の切手貼付）、平箱の場合は作品返却用宅配便着払い伝票（返送先明記） ■提出注意事項 提出物の内容が守られていない場合は不備となることがあります。 作品表面左下に「学籍番号・氏名・第○課題・○回目提出」を明記してください。 課題を折り畳んだり巻くなどして提出することになりますが、その形態に合わせて大学から送付する「作品提出用角筒」または「絵画作品送付用平箱」に入れて提出してください。 平箱で作品を送付する場合、添削指導評価書、作品返却用宅配便着払い伝票、レポート等は揃えてクリアファイルに入れてから箱に同封してください。 郵送中に作品が箱の中で動き画面が傷つかないように、梱包材を詰めるなど工夫してください。 平箱には側面に「学籍番号・氏名・住所・連絡先」を明記してください。 提出する際は「元払い」で送付してください（返却時は着払いで発送します）。 ※作品返却用宅配便着払い伝票について（返却用ですので、箱には貼付しないでください） 宅配便着払い伝票の「お届け先」欄に氏名、学籍番号、住所、電話番号等を明記の上、箱に同封してください。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出課題作品 ※再提出の場合は、前回の作品に加筆するのではなく、新しい作品を制作し提出すること。 ※作品の内容によっては加筆による再提出になることがあります。その場合は教員が総評にて指示します。 2. 再提出にあたってのレポート 3. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 4. 前回D評価の提出物すべて（D評価の添削指導評価書、D評価の写生、添削入り作品コピー、レポート） 5. 添削指導評価書にて教員が提出するように指定したもの 6. 角筒の場合は返送用宛名シール（返送先明記、提出時と同額の切手貼付）、平箱

再提出物 (一括送付)	の場合は作品返却用宅配便着払い伝票（返送先明記） ■再提出にあたっての注意事項 添削文を読み、返却された作品をじっくりと見つめ直してください。そして、再度取り組んだ課題についての感想・画想を新たに書き、初回提出時のレポートとともに提出してください。
----------------	---

課題の内容

「木の写生」

【進め方】

F10号スケッチブックから切りとった用紙2～4枚をつなげたものか、B全（72.8×103cm）サイズの紙（クラフト紙、模造紙、草稿紙、画用紙、ケント紙、和紙など自由）に木の写生をしてください。描画材は鉛筆、木炭、色鉛筆、パステル、コンテ、ペン、墨、水彩絵具など好きなもので描いてください。木炭等画面から粉が落ちる場合はフィキサチーフを使い定着させてから提出してください（パステルの場合は専用のフィキサチーフで定着させてください）。画面に定着していれば有彩色、モノクロームどちらでも構いません。

一本丸ごと描く、見上げた枝の広がりを描く、根だけ描く、幹の木肌にとことん迫って描くなど自分が興味を持ったところを大きな画面に描ききりましょう。

作品第2課題

課題コード：21

初回提出物 (一括送付)	以下のものを作品提出用角筒または絵画作品送付用平箱に入れて一括送付 1. 写生 F10号スケッチブックから切りとった用紙を2～4枚つなげたもの、もしくはB全サイズ（72.8×103cm）1枚（用紙は自由） 2. 制作意図・感想を書いたレポート（大学指定のレポート用紙1枚程度） 3. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 4. 角筒の場合は返送用宛名シール（返送先明記、提出時と同額の切手貼付）、平箱の場合は作品返却用宅配便着払い伝票（返送先明記） ■提出注意事項 提出物の内容が守られていない場合は不備となることがあります。 作品表面左下に「学籍番号・氏名・第○課題・○回目提出」を明記してください。 課題を折り畳んだり巻くなどして提出することになりますが、その形態に合わせて大学から送付する「作品提出用角筒」または「絵画作品提出用平箱」に入れて提出してください。 平箱で作品を送付する場合、添削指導評価書、作品返却用宅配便着払い伝票、レポート等は揃えてクリアファイルに入れてから箱に同封してください。 郵送中に作品が箱の中で動き画面が傷つかないように、梱包材を詰めるなど工夫してください。 平箱には側面に「学籍番号・氏名・住所・連絡先」を明記してください。 提出する際は「元払い」で送付してください（返却時は着払いで発送します）。 ※作品返却用宅配便着払い伝票について（返却用ですので、箱には貼付しないでく
-----------------	--

初回提出物 (一括送付)	ださい) 宅配便着払い伝票の「お届け先」欄に氏名、学籍番号、住所、電話番号等を明記の上、箱に同封してください。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出課題作品 ※再提出の場合は、前回の作品に加筆するのではなく、新しい作品を制作し提出すること。 ※作品の内容によっては加筆による再提出になることがあります。その場合は教員が総評にて指示します。 2. 再提出にあたってのレポート 3. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 4. 前回D評価の提出物すべて（D評価の添削指導評価書、D評価の写生、添削入り作品コピー、レポート） 5. 添削指導評価書にて教員が提出するように指定したもの 6. 角筒の場合は返送用宛名シール（返送先明記、提出時と同額の切手貼付）、平箱の場合は作品返却用宅配便着払い伝票（返送先明記） ■再提出にあたっての注意事項 添削文を読み、返却された作品をじっくりと見つめ直してください。そして、再度取り組んだ課題についての感想・画想を新たに書き、初回提出時のレポートとともに提出してください。

課題の内容

「花または実のついた植物の写生」

【進め方】

画面いっぱいに花または実の付いた植物を写生してください。切り花ではなく必ず土から生えているところを、根元から枝の先まで全部描きましょう。庭や花壇、畑などに生えているもの、そのようなものが近くにない場合は、プランターや植木鉢のものも可能です。花が咲いているのなら、雑草でも構いません。ただし一つの花が小さい場合は画面いっぱいに埋めてください。反対に果樹や花木のように大きすぎるものは任意のところで画面を切り取って描いてください。

鉛筆で正確な写生をした後、制作に利用する場合なども考えて、参考となるように部分的で良いので、花や葉、枝の一部分に色鉛筆や顔彩、水彩などで細密な着彩を施しておいてください。

TX	日本画演習Ⅳ	科目コード： 61607
配当年次	4年次～	
単位数	4	
履修の前提条件	前年度末までに卒業制作着手要件を充足し、卒業制作着手が許可されていること。	
履修方法	第1課題合格後、第2課題提出	
課題提出形態	郵送・窓口	
課題数	2	
課題提出期間	第1課題 【7/28締切分】07/07～07/28 第2課題 【1/20締切分】01/11～01/20 郵送・窓口での提出は締切日必着	
単位修得試験	無	
担当者	松生歩*、山田真澄*、後藤吉晃*	

科目概要と到達目標

第1課題は（1）40号自由制作作品、（2）40号自由制作作品に関するレポートです。

第1課題は卒業制作で自由制作を描ききる力を養うための、初めての自由制作です。作品を通して伝えたいことをしっかりと認識し、十分な写生をもとにして、これまでに学んだ技法を駆使した制作を完成させることが目標です。

第2課題は（1）卒業制作に関するレポート、（2）入学時からの作品をまとめたポートフォリオです。

第2課題（1）・（2）では自身の卒業制作を振り返って、これからの制作の方向を見据えることを目標とします。計画性が要求される日本画の制作において、自己の考えをまとめ作品を検証することで、卒業後も継続する制作活動への力を養います。

評価基準と成績評価方法

第1課題

1. 構想力
2. 表現力
3. 制作意図
4. 取り組む姿勢
5. 完成度

第2課題

1. 制作意図
2. 表現力
3. 取り組む姿勢
4. 完成度

※卒業制作ではテキスト科目の「日本画演習Ⅳ」（4単位）とスクーリング科目の「卒業制作1～6」

（合計6単位）合わせて10単位を一括認定します。従って課題の1つ、あるいはスクーリングの1つでも履修できなければ単位修得はできません。なお、成績には「日本画演習Ⅳ」として全提出作品の平均点

が表記されます（卒業制作が不合格になった場合、上記科目はすべて再履修となります）。

上記の評価基準を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に提出物をもって総合的に評価します。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『基礎から学ぶ日本画』『日本画の制作を学ぶ』
参考文献・URL	松生歩『白い紙の上に一日本画制作への向かい方とヒント』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学舎、2019年 松生歩『描くことの源泉へー発想の源を遡る』京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局芸術学舎、2019年

第1課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1. は「卒業制作2」スクーリングに持参し、講評を行う。2～4はレポート提出専用封筒に入れて一括提出 1. 40号自由制作作品 2. 自由制作に関するレポート（タイトル含めて800字程度。大学指定レポート冊子原稿用紙面または任意の400字原稿用紙：縦書き、ワープロの場合は任意のA4用紙横書き：文末に文字数記入） 3. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 4. 返送用宛名シール（返送先明記、15円切手貼付） ■提出注意事項 提出物に不備があると受け付けできません。提出物一式がすべて揃っているか必ず確認してください。
再提出物 (一括送付)	再提出の機会なし

課題の内容

「40号自由制作および作品についてのレポート」

【提出期間】

第1課題は下記のスクーリング開講日が指定提出日となります。

a日程：7月 7日（日）【厳守】（「卒業制作2」a日程（京都）スクーリング内）

b日程：7月14日（日）【厳守】（「卒業制作2」b日程（東京）スクーリング内）

c日程：7月28日（日）【厳守】（「卒業制作2」c日程（東京）スクーリング内）

作品をスクーリング会場に送付する場合は、「卒業制作2」スクーリングの「作品の事前送付について」をよく読み、指定日に送付してください。

初回提出物 (一括送付)	以下のものを作品送付用大型封筒または任意の封筒に入れて提出 1. 卒業制作に関する801字以上2000字以内のレポート（大学指定レポート冊子原稿用紙面または任意の400字原稿用紙：縦書き、ワープロの場合は任意のA4用紙横書き：文末に文字数記入） 2. 自作品のポートフォリオ（A4サイズのポケットファイルにまとめたもの1冊） 3. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし必要事項を記入） 4. 返送用宛名シール（返送先明記、提出時と同額の切手貼付）※1kgを超える場合は返送用宅配便着払伝票（返送先明記） ■提出注意事項 提出物に不備があると受け付けできません。提出物一式がすべて揃っているか必ず確認してください。
再提出物 (一括送付)	再提出の機会なし

課題の内容

「卒業制作のレポートおよび入学時からの作品ポートフォリオ」

【提出期間】

2020年1月11日（土）～1月20日（月）【必着】